

地域で活躍する「地域活性化リーダー」教育プログラム

平成28年度
成果報告書



中部大学

(事業協働機関)

はじめに

中部大学は、平成 24 年度に採択された文部科学省の「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」及び 25 年に採択された「地（知）の拠点整備事業」における活動実績を踏まえ、平成 27 年度より「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」に参加し、建学の精神「不言実行、あてになる人間」を信条として、地域社会の活性化と発展に貢献できる人材、「地域活性化リーダー」の育成を目指して様々な事業を進めています。

このCOC+事業は、岐阜大学を主管校に、本学、中部学院大学、日本福祉大学、名古屋学院大学が参加し、「岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」と称して、岐阜県を対象に、岐阜県、（一社）岐阜県経営者協会、（株）十六銀行、（株）大垣共立銀行、（株）マイナビと協働して行っている教育事業であります。

事業の目的は、岐阜県内企業のニーズと魅力を理解し、地域に定着して地域産業の担い手となり、地域の活性化に貢献できる人材の育成を目指すことですが、本学に求められている具体的目標は、岐阜県内への就職率の 10%アップです。この目標と合わせて、より広く「地域活性化リーダー」の育成という教育目標を達成するために、本学では、地域・国際連携教育研究センターにCOC+推進委員会を設置し、その下に教育研究部会とキャリア部会を置いて、以下の事業プログラムを展開しています。

COC+事業のプログラムは、COC事業の発展形の一つとして、COC事業における「地域創成メディエーター」の育成プログラムと同様に、正課教育の「学ぶ」と、正課外教育の「動く」の両者から構成しています。「学ぶ」では、キャリア教育科目、特別課題教育科目、リスク予防管理士指定科目の中から 3 単位以上の取得を義務付け、「動く」では、COC+に参加する 5 大学共通プログラムである企業見学会、サマースクール、岐阜企業展、企業向け成果発表会に加え、本学独自のPBLぎふゼミ、フィールド活動ぎふ、地域活性型インターンシップ、企業現場教育の活動から必須活動を含む 5 つ以上の活動を義務付けています。いずれのプログラムにおいても、予定した活動の着実な実施と学生の参加が概ね得られていますが、その成果の検証とそれに基づく改善は、これからの課題と考えています。

本成果報告書は、平成 27、28 年度において、本学で実施した過去 2 年間のCOC+事業の活動と成果をまとめたものであります。本報告書の内容を学内外に広く発信して、本学のCOC+事業に関するご理解を深めていただくとともに、次年度以降の活動に活かしていきたいと考えています。学内外の多くの方々には引き続きご支援・ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成 29 年 3 月

中部大学 地域・国際連携教育研究センター長

松尾直規

-目次-

はじめに

1. 概要

(1) 概要図	1
(2) 運営体制・メンバー表	11

2. 活動報告 <学内プログラム>

(1) 外部特別講師講義	15
(2) 特別セミナー	19
(3) PBLぎふゼミ	25
(4) 企業現場教育	59
(5) フィールド活動@ぎふ	97
(6) 地域活性化リーダーポスター発表会	99

3. 活動報告 <5大学共通プログラム>

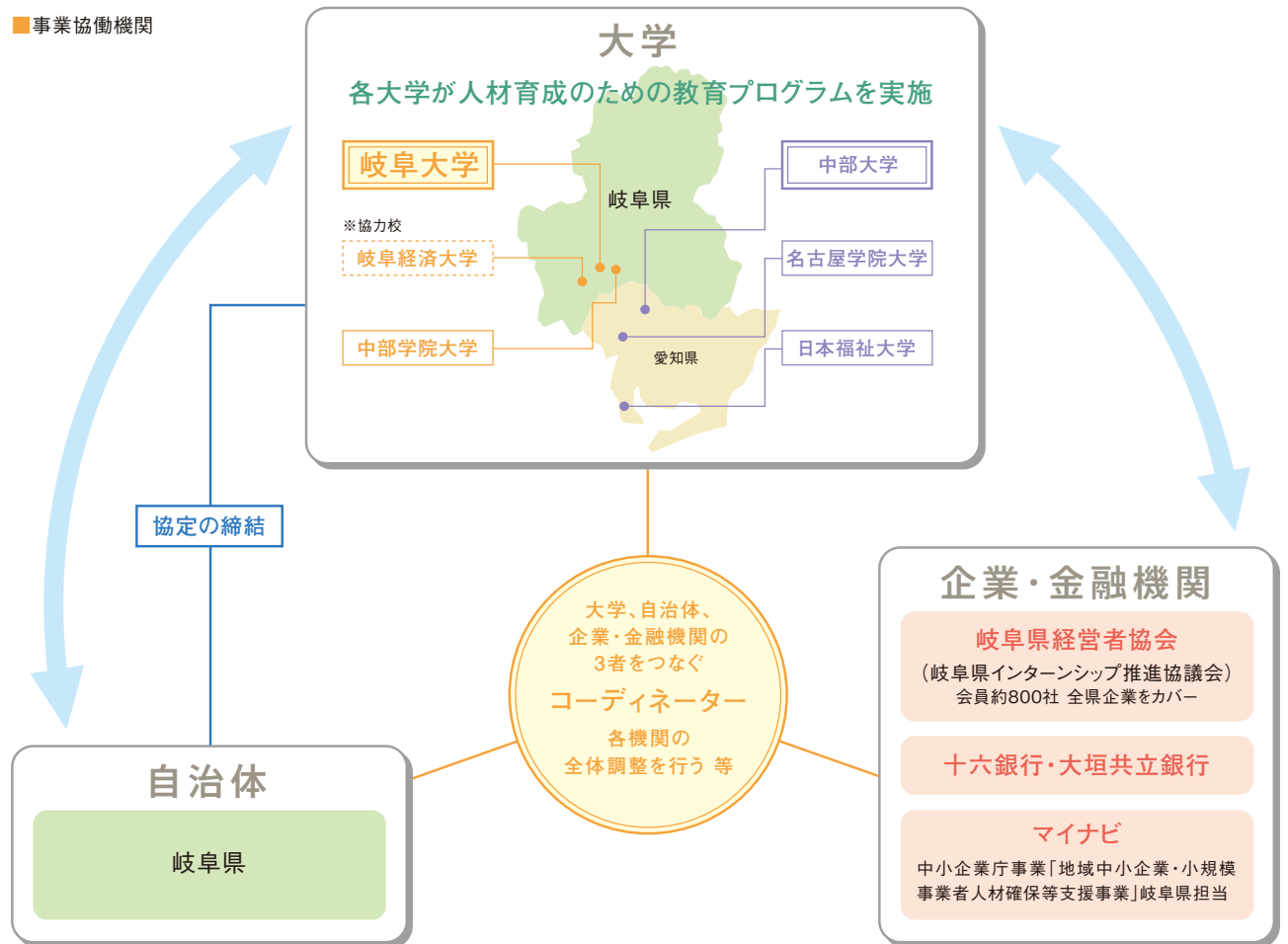
(1) サマースクール	101
(2) COC+企業向け成果報告会	107
(3) 合同企業説明会	109

1. 概 要

(1) 概 要 図

図解で分かりやすく！COC+事業

■事業協働機関



愛知県内の大学と岐阜県が協働。
岐阜県内の雇用創出、Uターン就職率向上を目指す。

若年層人口の都市部への一極集中を解消。

これからは
地域がおもしろい!

特集

地域で活躍したい人必見!

COC+事業 プラス に取り組もう

「地(知)の拠点大学による 地方創生推進事業(COC+)とは?

文部科学省による事業で、都市部への一極集中、地方との経済格差拡大を解消しようと地域で活躍する人材の育成、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的にした事業です。

本学に隣接する岐阜県では、特に進学時や就職時に若年層の人口流出が問題となっており、本学は岐阜県からの進学者も多いことから、岐阜県内の大学、地方公共団体、中小企業などと協働して地方(岐阜)の魅力向上につながる計画を策定。「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に岐阜大学を中心とした事業機関と協働した取り組みを申請、採択されました。

このCOC+事業により、本学は学生にとって魅力ある就職先を創出し、地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムを行うことで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目指します。

事業名

岐阜でステップ×岐阜にプラス
地域志向産業リーダーの協働育成

事業実施期間

平成27年度～平成31年度

事業協働機関

中部大学、岐阜大学、中部学院大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、一般社団法人岐阜県経営者協会、株式会社十六銀行、株式会社大垣共立銀行、株式会社マイナビ

● 地域活性化リーダー
資格取得のモデルケース

受講はいつからでも、どこからでもOK!
必須単位の取得順序に決まりなし!
それぞれの必要項目を満たした時点で
認定申請が可能です。

〈例〉A君の場合、2年生から受講スタート。



1年生

- 「社会人基礎知識」(春学期)2単位 **選択必須**
- PBLぎふゼミ(8月下旬・2日間) **必須**
- サマースクール(9月初旬・2泊3日) **必須**
- 「持続学のすすめ」(秋学期)2単位 **選択必須**
- 企業現場教育1回 **選択必須**

3年生

- 地域活性化型インターンシップ **選択必須**
 - 企業向け成果発表会(2月末頃)1回 **必須**
- 地域活性化リーダー認定**
※岐阜企業展への参加を前提に認定します。
- 就職活動開始(3月初旬～)
- 岐阜企業展(3月中旬) **必須**

就職活動で
資格を生かそう!

4年生

卒業・就職

- 「学ぶ」の科目から3単位以上選択必須
- 「動く」の活動から5企画以上の参加必須
- PBLぎふゼミは参加必須

■ お問い合わせ先

中部大学 地域連携教育研究推進部(16号館3階)
電話 0568-51-1763 Eメール plus@office.chubu.ac.jp
http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/

キャリア教育科目	●自己開拓(1単位) ●社会人基礎知識(2単位)
特別課題 教育科目	●地域共生実践(2単位) ●持続学のすすめ(2単位) ●地域の防災と安全(2単位) ●人類と資源(2単位) ●地球を観る(2単位) ●グローバル環境論(2単位)
リスク予防管理士 指定科目	●安全工学(2単位) ●バイオ産業リスク予防学(2単位) ●食品リスク予防学(2単位) ほか

- 企業向け成果発表会(大学連携) **必須** ●岐阜企業展(大学連携) **必須**
- サマースクール(大学連携) **必須**

選択必須

- 企業見学会(大学連携)
- 企業現場教育

選択必須

- 地域活性化型インターンシップ
(インターンシップA+B 岐阜県内対象)
- フィールド活動@ぎふ

●課題解決型のゼミナール

「PBLぎふゼミ」は、「岐阜」地域を学びの材料とし、学生自身が地域社会(岐阜はもちろん、自分の出身地など)の中で自分の持ち味を發揮して地域や周囲に関わっていくための力を身に付けることができる体験型学習。

地域をけん引する次世代のリーダーとして
自ら考え行動する力を身につけた学生に認定

※課外活動への参加、PBLぎふゼミへの参加申し込みは
地域連携教育研究推進部まで(16号館3階)



企業見学会(大学連携)での会社説明



中部大学のCOC+事業への取り組み

地域で活躍する

「地域活性化リーダー」を育成します

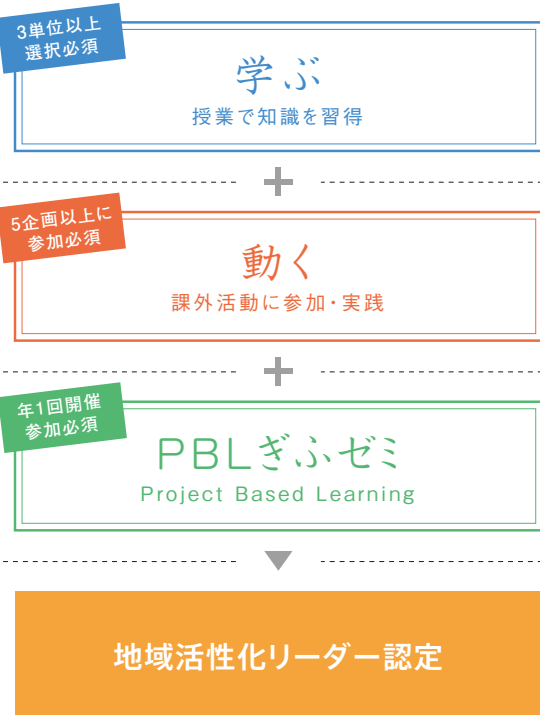
本学は、他大学・自治体・企業・金融機関と協働して岐阜県内の企業と学生との関わりを強化し、地域のニーズにあった人材、「地域活性化リーダー」を育成します。
地域活性化リーダーは、岐阜県をモデルに地域の課題を見つけて、その解決に取り組む「ひと」です。

岐阜県がモデル地域ですが、地域を持つ課題は全国的に共通する点も多いので、ふるさとにリターン就職を考えるすべての人におすすめです。

就職活動にも役立つ！

地域活性化リーダーになるには

①所定の単位を修得し、②企業現場教育などの課外活動と③PBLぎふゼミ(Project Based Learning 課題解決型のゼミナール)に参加することで、地域活性化リーダーの資格を取得することができます。



課外活動 の実例

企業現場教育での
高速道路施工現場見学



企業での地域活性化型
インターシップ

こんなキミに おすすめ

- 自分の生まれた町が好き。
- 就職はふるさとでしたい。
- 地域活性化に興味がある。
- 就職活動にも役立てたい。



中部大学

地域活性化リーダー

資格取得ガイド

文部科学省 平成27年度

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」選定取組

ふるさとに
狙いを
さだめよう。

ボクらが
地域の未来を
つくるんだ!

「地域未来」のスキマに キミのチャンスがある!

これからは「地域」がオモシロイ

人口減少・超高齢社会が地域経済を縮小し、若い世代の地域離れを加速させている現代。
しかし、いまこそ意識を向けるべきは「地域」です。
地域の特徴を生かした自律的で持続的な社会を創生する中心となるのは、やはり「ひと」。
地域を明るい未来にけん引する、次世代リーダーのやる気と力が求められています。

「地域」にこそある、キミの居場所

都心部ではキミは「大勢の中の一人」になるかもしれません。
でも、地域では一人ひとりの能力や発想、意欲は大切な宝です。
責任や重圧はあるけれど、仕事のやりがいや魅力をより早く感じることができ、
自分の可能性がどんどん見えてくるはず。
充実感にあふれた毎日が、「地域」でキミを待っています!



こんなキミに
おすすめ

就職は
ふるさとでしたい。

自分の生まれた
まちが好き。

地域活性化に
興味がある。

実際の仕事や
現場が見たい。

森や川、
自然が好き。

体験フィールドは、清流の国「岐阜」

長良川の鶯飼、世界文化遺産・白川郷、中山道馬籠宿など、全国的に知られる観光名所が点在する岐阜県。
自然に恵まれた土壌は農業、林業を盛んにし、美濃焼・刃物などの伝統工芸から、航空・自動車産業に関連する金属加工等の製造業を発展させて、ものづくりに取り組む「ひと」を育ててきました。
現在、IT産業の育成やアパレル産業の復興にも力が注がれ、未来を担う次世代リーダーが活躍する場は無限に広がっています。
中部大学は岐阜県恵那市の中部大学研修センターと岐阜県高山市、奥飛騨温泉郷の新穂高山荘を活用して、岐阜県という地域の現状や未来性を体感できる合宿やゼミを行います。



中部大学研修センター(恵那市)



中部大学新穂高山荘(高山市)

中部大学認定 地域活性化リーダーとは

岐阜の地域創生へのキーパーソン

地域活性化リーダーとは、岐阜県をモデルに地域の課題解決を見つけて、その解決に取り組む「ひと」です。資格認定までの道のりは遠く、難しそうだと感じるかもしれませんが、まずは臆せず、面白そうだな、楽しそうだな、と思った科目や課外体験に参加してみてください。考えるよりも行動してみることが大切です。自ずと課題や「自分」も見えて、自己成長にもつながります。また、資格認定は就活にも断然有利。一步前へ、その足を踏み出しましょう！



動けば実り豊か。「自分」のここが育つ！伸びる！

中部大キャンパスで

学ぶ

授業で知識を習得

地域や社会に貢献するために、自分はどんな人で何ができるのかを考え、自己を開拓し、社会人基礎知識を授業で習得。地域社会の背景や、問題解決に必要な専門知識も学びます。

3単位以上 必須

岐阜県で

動く

+ 課外体験に参加・実践 +

岐阜県内にキャンパスを広げ、地域の人々とともに、地域特有の課題に取り組みます。その実践過程において、自分の能力や可能性を探り、社会人としての考え方を鍛え、個性を伸ばします。

5企画以上の参加 必須

P
B
L

キミのやる気を応援する
完全バックアップ体制！

地域活性化リーダーの育成は大学、地方公共団体、企業の連携で行われます。

- 岐阜県経営者協会
(岐阜県インターンシップ推進協議会)
- 十六銀行・大垣共立銀行

岐阜県の会社や企業が課外体験に協力。実社会、現場、仕事を体感できます。

- 就職情報サービス マイナビ

企業と学生のマッチングイベントや就職相談室を常設。資格認定希望者限定の企業情報もあります。

認定

動く この資格ならではの。地域志向の「課外体験」

課外体験はすべて岐阜県で行われますが、地域が持つ課題は全国的に共通する点も多く、ふるさとでのUターン就職を考える人には特におすすめ。

大学合同プログラム

岐阜大学・中部学院大学・日本福祉大学・名古屋学院大学などの他大学の学生たちと、切磋琢磨しながら交流を図る大学合同プログラム。仲間が増えて人脈も広がります。

企業向け成果発表会

自らの学びの成果を企業に向けてプレゼンテーションします。

岐阜企業展

岐阜県内企業とのマッチングイベントに参加します。

サマースクール

宿泊活動を行い、大学間・異学年の交流を深めるとともに企業への取材活動や発表を行います。

企業見学会

大学での学びと企業との繋がりを知りキャリア形成意欲の向上を図ります。

企業現場教育

企業や現場を訪問し、実際の業務を体験します。現場で求められている人材・スキルを体験から学び、就職に向け、将来像を明確にすることができます。



高速道路 施工現場見学

地域活性化型 インターンシップ(A+B)

参加手続：インターンシップA・Bと同じ
実習先：インターンシップBのマッチング段階で別案内
COC+事業協働機関の協力を得て魅力ある岐阜県の企業、官公庁などで行われる「地域活性化型インターンシップ」へ参加します。岐阜県出身者や岐阜県の企業に関心のある学生には特に有益な就労体験です。

フィールド活動@ぎふ

研究室が岐阜で展開しているさまざまな研究・教育活動へ参加。実際に現地で情報を収集し、課題や背景を理解し、解決に挑戦します。講義室を飛び出し、現実世界を自ら体験しましょう。



「新・森の健康診断」



「ジュニアセミナー」

PBL

ぎふゼミ
Project Based Learning

仕事に必要な共同作業の能力を養うために、Project Based Learning(課題解決型学習)を、岐阜県をテーマにグループ単位で行います。実社会に対応するリアルな問題に對し、その解決過程に参画することで実践的思考を鍛えます。

課題解決型学習の流れ

グループ
討議

活動記録の
作成

自己学習

成果報告

中部大学 3つの「あてになる人間」育成プログラム

「あてになる人間」育成プログラムの資格は、単位取得だけでなく、そのプロセスにおいて中部大学の建学の精神「不言実行、あてになる人間」の素質を身につけた学生に認定されるものです。同じ資格に何度でもトライ可能、各資格に共通する講座やプロジェクトもあるので、別の資格を重ねて取得することもできます。

春日井のまちがキミのキャンパス

地域創成メディエーター

地域の人と人をつなぐ結びつけるメディエーター[mediator(媒介者)]となり、主体性をもって解決の一步を踏み出す力を身につけた学生に認定される資格です。

全学部対象

地域志向、ふるさと志向

地域活性化リーダー

岐阜県を通して地域の良さを知り、その特徴を生かし、地域をけん引する次世代のリーダーとして、自ら考え行動する力を身につけた学生に認定される資格です。

全学部対象

21世紀産業界の即戦力になる

リスク予防管理士

産業活動において重要課題ニーズとして求められる「リスク予防・リスク管理・リスク低減」のスキルを実践的に修得した学生に認定される資格です。

工学部・応用生物学部・生命健康科学部 対象

地域創成メディエーター
発表会・審査会

動く | 課外 / 1個以上の参加

生活・住環境を考えるまちづくり

コミュニティ情報ネットワーク

高齢者・学生交流
Learning Home Stay

キャンパスタウン化

報酬型インターンシップ

シニア大学

など

動く | 課外・一部正課 / 5個以上の参加

企業向け成果発表会 大学連携 必須

岐阜企業展 大学連携 必須

サマースクール 大学連携 必須

企業見学会 大学連携

選択必須

企業現場教育

岐阜県内対象

地域活性化型
インターンシップ

岐阜県内対象・インターンシップA+B:3単位

選択必須

フィールド活動@ぎふ

岐阜県内対象のゼミ単位プロジェクトなど

動く | 課外

企業現場教育

必須

どの資格も

思い立ったら
始めどき!

いつでもチャレンジ!!

受講はいつからでも、どこからでも。
必須単位の取得順序に決まりはありません。
それぞれの必要項目を満たした時点で
認定申請が可能です。

学ぶ | 正課 / 10単位以上

キャリア教育科目 1単位以上必須

自己開拓:1単位 / 社会人基礎知識:2単位

特別課題教育科目 2単位以上必須

地域共生実践・持続学のすすめ ほか:各2単位

地域関連科目 2単位以上必須

すべての科目より自己選択・申請

学ぶ | 正課 / 3単位以上

キャリア教育科目

自己開拓:1単位 / 社会人基礎知識:2単位

特別課題教育科目

地域共生実践・持続学のすすめ ほか:各2単位

選択必須

リスク予防管理士指定科目

バイオ産業リスク予防学 ほか:2単位
岐阜県企業より特別講師を招聘

学ぶ | 正課・一部課外

リスク予防管理士特別セミナー 必須

企業経営者クラスによる講演

リスク予防管理士指定科目 必須

バイオ産業リスク予防学 ほか:2単位
企業より特別講師を招聘



地域連携教育研究推進部の事務局またはWebサイトで、詳しい情報が入手できます。

<http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/>

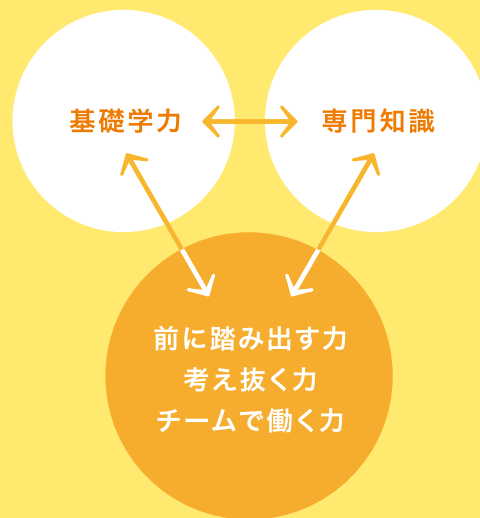
中部大学 COCプラス

検索

チャレンジする勇氣と実行。

もっと社会に、より地域に近い教育を。

中部大学の3つの「あてになる人間」育成プログラムは、
 在学中から社会経験を積み、社会で生きていくための
 即戦力を身に付けることができる中部大学方式の人材育成プログラム。
 その目標を資格取得要件に定めていますが、
 資格そのものが大事なのではなく、資格取得までの道のりこそが
 「意義」と「価値」がある「行動」です。
 自分の可能性を信じて、挑戦してみませんか？





地域志向、ふるさと志向。中部大学COC^{プラス}事業

中部大学の「地域活性化リーダー教育プログラム」は平成27年、文部科学省の大学COC+事業(大学連携取組「岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」)に採択されました。岐阜をモデル地域として、その魅力や課題を見つけ、特徴を生かして課題解決に向けて行動する能力を備えた、若き産業リーダーの育成に取り組んでいます。地域活性化リーダーの資格への挑戦は貴重な経験であり、その努力が実った資格認定は達成感や充実感があり、自分の自信と誇りになります。仲間とともに地域を、そして自分を創生しませんか。

中部大学 地域連携教育研究推進部

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地(16号館3階)

TEL 0568-51-1763 FAX 0568-51-4659

E-mail: plus@office.chubu.ac.jp



中部大学の「地域活性化リーダー教育プログラム」は、文部科学省が地域の課題解決に取り組む大学を支援する「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」=大学COC+(Center of Community Plus)事業です。

詳しくはWebサイトへ

<http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/>

中部大学 COCプラス

検索

(2) 運営体制・メンバー表

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」運営体制
【ぎふCOC+事業推進コンソーシアム】

構成団体	岐阜大学、中部学院大学、 <u>中部大学</u> 、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、岐阜県経営者協会、十六銀行、大垣共立銀行、マイナビ ＜協力校＞ 岐阜経済大学
役員	代 表（1名）：岐阜大学長 副代表（2名）：岐阜大学理事、 <u>中部大学長</u>
事務局	岐阜大学学術国際部社会連携課

運営会議 事業の運営に関する重要な事項を審議する。
岐阜大学長・理事・地域協学センター長・統括事業推進コーディネーター、中部学院大学長、中部大学長、日本福祉大学長、名古屋学院大学長、岐阜県知事、岐阜県経営者協会会長、十六銀行頭取、大垣共立銀行頭取、マイナビ事業本部長

評価委員会
事業の着実な実施と事業実施による成果を産官学金言等の有識者により検証する。

幹事会 事業協働機関の実務担当者及び事業推進コーディネーターで構成し、事業全体企画・運営について調整する。
岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、岐阜県経営者協会、十六銀行、大垣共立銀行、マイナビ

人材育成企画部会
岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学

連携・マッチング推進部会
岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、岐阜県経営者協会、十六銀行、大垣共立銀行、マイナビ

1. 概要

平成28年度 COCプラス推進委員会名簿

委員長	学監、地域・国際連携教育研究センター長 (工学部 都市建設工学科)	松尾 直規
副委員長	地域・国際連携教育研究センター副センター長 (応用生物学部 応用生物化学科)	倉根 隆一郎
副委員長	学生教育推進機構副機構長(キャリア部長) (全学共通教育部 全学総合教育科)	宮本 順一
委員	工学部 副学部長(機械工学科)	細川 健治
〃	経営情報学部 経営総合学科	澤村 隆秀
〃	国際関係学部 国際学科	桃井 治郎
〃	人文学部 コミュニケーション学科	三摩 真己
〃	応用生物学部 環境生物科学科	上野 薫
〃	生命健康科学部 生命医科学科	伊藤 守弘
〃	現代教育学部 児童教育学科	古市 真智子
〃	工学部 電気システム工学科	廣塚 功
〃	工学部 都市建設工学科	余川 弘至
〃	工学部 応用化学科	宮内 俊幸
〃	工学部 ロボット理工学科	藤吉 弘亘
〃	人文学部 日本語日本文化学科	愛知 峰子
〃	応用生物学部 食品栄養科学科 食品栄養科学専攻	和田 俊夫
〃	応用生物学部 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	小川 宣子
〃	生命健康科学部 スポーツ保健医療学科	西垣 景太
〃	全学共通教育部 副部長	佐野 充
〃	地域連携教育研究推進部 部長	庄山 正志
〃	学生教育部 教務支援課 課長	田中 恭一
〃	学生教育部 キャリア支援課 課長	加藤 透
〃	学生教育部 キャリア支援課	佐野 賢志
アドバイザー	教育支援機構 機構長	杉本 和弘
事務局	地域連携教育研究推進部 部長	庄山 正志
〃	地域連携教育研究推進部 課長	丹羽 ゆかり

平成28年度 COC+教育研究部会

委員長	地域・国際連携教育研究センター副センター長 (応用生物学部 応用生物化学科)	倉根 隆一郎
委員	工学部 副学部長 (機械工学科)	細川 健治
〃	工学部 応用化学科	宮内 俊幸
〃	工学部 ロボット理工学科	藤吉 弘亘
〃	人文学部 日本語日本文化学科	愛知 峰子
〃	応用生物学部 環境生物科学科	上野 薫
〃	応用生物学部 食品栄養科学科 食品栄養科学専攻	和田 俊夫
〃	生命健康科学部 生命医科学科	伊藤 守弘
〃	現代教育学部 児童教育学科	古市 真智子
〃	全学共通教育部 副部長	佐野 充
〃	地域連携教育研究推進部 部長	庄山 正志
〃	教務支援課 課長	田中 恭一
(事務局)	地域連携教育研究推進部	丹羽 ゆかり

平成28年度 COC+キャリア部会

委員長	学生教育推進機構キャリア支援課キャリア部長 (全学共通教育部 全学総合教育科)	宮本 順一
委員	工学部 電気システム工学科	廣塚 功
〃	工学部 都市建設工学科	余川 弘至
〃	経営情報学部 経営総合学科	澤村 隆秀
〃	国際関係学部 国際学科	桃井 治郎
〃	人文学部 コミュニケーション学科	三摩 真己
〃	応用生物学部 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	小川 宣子
〃	生命健康科学部 スポーツ保健医療学科	西垣 景太
〃	地域連携教育研究推進部 部長	庄山 正志
〃	キャリア支援課 課長	加藤 透
〃	キャリア支援課	佐野 賢志
(事務局)	地域連携教育研究推進部	丹羽 ゆかり

2. 活 動 報 告

<学内プログラム>

(1) 外部特別講師講義

外部特別講師 一覧 (平成27年度)

工学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	工業力学	自転車の製品設計におけるリスクとそのリスク予防	(株) ジャパーナ テクニカルセンターミタケ	河合 茂博
2	化学英語セミナー	電気・制御設計の最新技術とリスク予防	(株) テクアス	堀 雄太

応用生物学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	食品リスク予防学	リスク管理について	(株) 秋田屋本店	中村 正 池野 久美子
2	微生物学 I	6次産業におけるリスク管理について	(株) 恵那川上屋	鎌田 昇

人文学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	日本文化演習B 日本文学演習B 日本語学演習B	日本文化における「わび」「さび」から 現代のバサラまで～さまざまなリスクに 配慮した地域活性化の視点から～	ありが印刷(株)	有賀 和秋

現代教育学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	キャリア開発A	岐阜県の教育と魅力	岐阜県教育委員会 事務局教職員課	明星 裕

外部特別講師 一覧 (平成28年度)

工学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	建設環境工学	建設事業における環境分野の取組み	大日コンサルタント(株)	岩原 雄一郎
2	有機化学B	化学物質のリスク評価と管理入門 ～健康障害を中心に～	(株)富士清空工業所	奥田 篤史
3	ゼミナールB	リスク予防管理(仮)	イビデン(株)	松原 芳久
4	ゼミナールA	人間と作業-人間とロボットの比較から	岐阜保健短期大学	原 和子
5	企業情報システムと倫理	物流企業におけるICT	(株)セイノー情報サービス	早川 典雄
6	生産加工学B	複合材料の航空機への適用動向及び今後の技術課題	公益財団法人 岐阜県研究開発財団	井牟田 守

経営情報学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	基礎ゼミナール	岐阜県企業から学ぶ初年次におけるキャリア形成	ヨツハシ(株)	新海 翔太 寺濱 阿沙子

国際関係学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	南北地域論	地域を生きる。～神は細部に宿る～	岐阜聖徳学園大学	林 憲和
2	世界史概論	畜産の歩みと今後の展望	岐兵(株)	鈴木 将弘

人文学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	民間伝承論A	神社の一年と地域活性化	八幡神社	黒田 正直
2	社会学	岐阜県第3セクター鉄道の復興応援企画	岐阜広告(株)	棚橋 寛二
3	地域と都市	歴史的遺産を生かしたまちづくり	陶磁器生産 (自営業)	後藤 清

応用生物学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	バイオ産業リスク予防学	安心・安全な商品を提供し続ける為の管理	(株)恵那川上屋	丸山 朋運
2	食品リスク予防学	株式会社サラダコスモにおける食品リスク管理の事例紹介	(株)サラダコスモ	猪野 嘉中
3	食品リスク予防学	リスク管理～食品製造におけるリスク及びリスク予防について～	(株)秋田屋本店	池野 久美子
4	食品リスク予防学	現場によりそう食品安全とは何か	内堀醸造(株)	浅井 未穂 浅川 和也
5	食品リスク予防学	企業活動におけるリスクマネジメント	厚生産業(株)	坂井 猛
6	調理学	『種』という根本からの付加価値ブランド(純国産鶏卵さくらたまご・もみじたまご)	(株)後藤孵卵場	日比野 義人

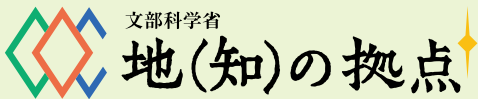
生命健康科学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	健康運動トレーニング論	岐阜からオリンピック選手を！～スポーツ医・科学を活用したアスリートサポート～	スポーツ科学センター	亀岡 舞

現代教育学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	子どもの保健A	女性が働きながら出産・育児を経験する意義	岐阜県美濃加茂市加茂野小学校	三品 愛美

(2) 特別セミナー



文部科学省

地(知)の拠点

平成27年度採択 文部科学省 地(知)の拠点大学による

地方創生推進事業 (COC+)

特別セミナー

Vol.1
参加無料学生の皆さんへ
ご案内します！

地元で実行、あてになる人間

平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に、岐阜大学を中心とした事業協働機関(岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、(一社)岐阜県経営者協会、(株)十六銀行、(株)大垣共立銀行、(株)マイナビ)による取り組みが採択されました。本事業の一環として、地方公共団体や企業等と協働し、学生にとって地方の魅力ある就職先等を紹介する場として特別セミナーを開催します。

本セミナーは、これからの就職活動の契機にもなりますので、是非参加ください。

日時 平成28年 **3月11日(金)** 13:30~15:45

場所 **中部大学 リサーチセンター 2階大会議室**

PROGRAM

13:30~13:35	開会挨拶	中部大学 学監/地域・国際連携教育研究センター センター長	松尾 直規
13:35~14:35	講演 ①	「数字から考える地方就職」	
		NPO法人 G-net 理事/採用・就職支援事業部 部長	田中 勲氏
14:40~15:40	講演 ②	「キラリと光る地元企業」	
		OKB大垣共立銀行グループ 株式会社OKB総研 調査部 部長	今井 茂樹氏
15:40~15:45	閉会挨拶	中部大学 地域・国際連携教育研究センター 副センター長	倉根 隆一郎

お問い合わせ先

中部大学 地域連携教育研究推進部

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地

TEL.0568-51-1763(直通) FAX.0568-51-4659

E-mail/plus@office.chubu.ac.jp

HP/http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/



中部大学

平成 27 年度 COC+特別セミナーアンケート集計

平成 28 年 3 月 11 日 (金) 実施

学生参加者 : 12 名

回 答 者 : 9 名

1. 本日のセミナーは、役に立ちましたか？

- | | | | |
|-------------|-------|----------------|-------|
| 1. とても役に立った | (3 名) | 2. まあまあ役に立った | (6 名) |
| 3. どちらでもない | (0 名) | 4. あまり役に立たなかった | (0 名) |
| 5. 役に立たなかった | (0 名) | | |

2. 本日のセミナーで興味深かったのはどれですか？(いくつでも可)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 「数字から考える地方就職」(7 名) | 2. 「キラリと光る地元企業」(6 名) |
|-----------------------|----------------------|

3. 中部大学認定「地域活性化リーダー」の資格取得を考えていますか？

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. はい (1 名) | 2. いいえ (8 名) |
|-------------|--------------|

4. 本日のセミナーに関して意見や感想を記入して下さい。

- ・就職活動に関して、役に立つことが多く学ぶことができた。考え方も少し変わったので、今回のことを生かして就職活動に役立てていきたいです。
- ・Uターン就職を希望しており、就活の参考にと思い参加した。現在、中小企業にエントリーを出そうか考えていたので本日のセミナーは大変有意義なものであった。「キラリと光る地元企業」のお話の中にあつた企業経営者の考えについてのお話は就活のみでなく、社会に出てからも活きるのではと感じた。
- ・中小企業への就職も早めに視野に入れた就職活動がより良い結果につながると分かりました。

以上



講演 1. 「数字から考える地方就職」

NPO 法人 G-net 理事
採用・就職支援事業部
部長 田中 勲 様



講演 2. 「キラリと光る地元企業」

株式会社 OKB 総研
調査部
部長 今井 茂樹 様

学生の皆さんへご案内します!



文部科学省
地(知)の拠点大学による **地方創生推進事業(COC+)**

特別セミナー

Vol.2
参加無料

【主催】
中部大学
地域・国際連携教育研究センター
地域連携教育研究推進部

～地元で実行、あてになる人間～

平成28年 **9月28日(水)** 15:20～16:30
中部大学 三浦幸平メモリアルホール

愛知県春日井市松本町1200

PROGRAM

開会挨拶 ■15:20～15:25■ 中部大学 学監/地域・国際連携教育研究センター センター長 **松尾 直規**

講演 ■15:25～16:25■ 東濃信用金庫 理事長 **市原 好二氏**

「地元と共にあり、共に栄える」

地方創生が叫ばれて久しいが、行政(県庁・市役所)や商工会議所に加え、地域金融機関の果たすべき役割が大きくなっている。経済の血流であるマネーの供給に止まらず、幅広い地域情報や産業情報に接する機能を活用し、故郷の活性化に貢献する。地元の企業や地域全体が元気になることに喜びを感じる、それが地域金融機関の仕事である。



【講師プロフィール】

市原 好二 Kouji Ichihara
昭和29年5月7日生(62歳)岐阜県多治見市出身
昭和53年3月 名古屋大学法学部 卒業
昭和53年4月 日本銀行入行
統計局～営業局～電算情報局
平成12年3月 検査室検査課長
平成13年4月 函館支店長
平成16年4月 京都支店長
平成19年4月 東濃信用金庫入庫
平成19年5月 リスク統括部長
平成19年6月 理事・リスク統括部部長
～本店営業部部長
平成20年6月 常務理事 管理統括第三本部長
平成21年6月 理事長(現在に至る)

終了後は、就職ガイダンスを開催します。

平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に、岐阜大学を中心とした事業協働機関(岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、(一社)岐阜県経営者協会、(株)十六銀行、(株)大垣共立銀行、(株)マイナビ)による取り組みが採択されました。本事業の一環として、地方公共団体や企業等と協働し、学生にとって地方の魅力ある就職先等を紹介する場として特別セミナーを開催します。【本セミナーは、これからの就職活動の契機にもなりますので、是非参加ください。】

お問い合わせ先 **中部大学 地域連携教育研究推進部**

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地
TEL.0568-51-1763(直通) FAX.0568-51-4659

E-mail / plus@office.chubu.ac.jp

HP / <http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/>



中部大学

平成 28 年度 COC+特別セミナーアンケート集計

平成 28 年 9 月 28 日 (水) 実施

学生参加者 : 292 名

回 答 者 : 283 名

1. 本日のセミナーは、役に立ちましたか？

- | | | | |
|-------------|--------|----------------|---------|
| 1. とても役に立った | (71 名) | 2. まあまあ役に立った | (156 名) |
| 3. どちらでもない | (41 名) | 4. あまり役に立たなかった | (9 名) |
| 5. 役に立たなかった | (4 名) | (無回答 2 名) | |

2. 中部大学認定「地域活性化リーダー」の資格取得を考えていますか？

- | | | | | |
|-------|--------|--------|---------|-----------|
| 1. はい | (19 名) | 2. いいえ | (260 名) | (無回答 4 名) |
|-------|--------|--------|---------|-----------|

3. 本日のセミナーに関して意見や感想を記入して下さい。

- ・私は地元を出て、仕事をしようと考えており、市原様が他の場で力をつけて地元に戻ったと聞き、私も最終的には地元で地域活性化に貢献できる人になりたいです。
- ・市原様が大学時代に「法律相談所」という活動を通して会話のキャッチボールの訓練をしていたのを知り、就職活動においても、コミュニケーションは今後切っても切れない大切なものだと感じた。就職が決まってからも職場の人、営業先の人との会話が重要になっていくのだと思いました。
- ・情報が大切だと感じた。他と何か違う強みが就職活動にも、会社経営にも必要だと改めて思いました。目先のことだけ、興味のあることだけではなく、多種多様な職種の中から、広い視野で会社を見つけたいと思いました。

他



「地元と共にあり、共に栄える」
東濃信用金庫 理事長
市原 好二 様



文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

中部大学COC+事業

特別セミナー

Vol.3
参加無料

平成28年11月16日(水) 15:20~16:30 / 中部大学 不言実行館1階 アクティブホール

PROGRAM

開会挨拶 | 15:20~15:25 | 中部大学 学監/地域・国際連携教育研究センター センター長 **松尾 直規**

講演 | 15:25~16:25 | 講演50分/質疑応答10分 ヤマザキマザック株式会社 副社長 **長江 昭充 氏**

===産業革命と工作機械===

18世紀半ばにイギリスで起こった産業革命は、250年の間に世界中に広がり、現代の我々の世界を豊かで活動的なものへと大きく変貌させた。産業革命とは、つまるところ鉄鉱石を始めとする原材料を地下から掘り出し、製錬して金属材料とし、それらを塑性加工や切削加工で部品の形に仕上げ、部品を組み立てて様々な機械を作り上げ、その機械を地下資源である石炭、石油、天然ガスなどのエネルギーで動かして、様々な人類に有用なモノを造り出すことで成り立っている。工作機械は、このうちの部品を造り出す機械を意味するが、機械を造り出す機械であるところから時として「Mother Machine」と呼ばれ、この良非で生産性が大幅に異なることから、工業化を進める国の間では激しい開発競争が行われてきた。工作機械は、歴史的には産業革命に伴って英国で開発されたが、すぐに欧州大陸に伝播し、さらに米国で大きく発展した。日本では、1945年の敗戦によって、一時は工作機械の生産を禁止されていたが、独立後すぐに生産を再開し、1982年には、NC工作機械の量産と世界市場への輸出が好調だったおかげで、世界第1位の生産量を誇るようになった。この世界1位の座は、2008年のリーマンショックで大幅に落ち込み、中国に奪われるまで26年間に亘って続いた。現在は中国が生産量世界1位となっているが、技術的には遅れており、日本とドイツが技術1位の座を巡って競争している。

我々の住む中部地方は、日本の中でも工作機械産業が集積している地域であり、世界でも有数の工作機械生産地である。日本の工業の空洞化が叫ばれているが、工作機械は技術者の創意工夫と経験を積んだ優れた技能者の協力関係で生産されており、今後とも日本の得意分野として大切に育てていかなければならない分野である。

岐阜県美濃加茂市にある美濃加茂工場での成功例を基本にして、地域にも目を向けられる「地域」「活性化」「リスク管理」の3つのキーワードからの求められる人材像についても述べる。

優秀な学生諸君に工作機械産業に就職して、世界の工業の生産性を高める仕事で活躍してもらいたい。

閉会挨拶 | 16:25~16:30 | 中部大学 工学部 部長 **竹内 芳美**

終了後は、就職ガイダンスを開催します。

中部大学 地域連携教育研究推進部

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地
TEL.0568-51-1763 (直通) FAX.0568-51-4659

E-mail / plus@office.chubu.ac.jp

HP / <http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/>



中部大学

平成 28 年度 COC+特別セミナーアンケート集計

平成 28 年 11 月 16 日 (水) 15:20~16:30

講演者 ヤマザキマザック株式会社 副社長 長江 昭充 氏

学生参加者 : 263 名 (工学部 都市建設工学科・建築学科・機械工学科)

回答者 : 232 名 (回答率 : 88%)

1. 本日のセミナーに参加して良かったですか？

はい 192 名 (83%) いいえ 10 名 (4%) 無回答 30 名 (13%)

2. 資格取得を考えていますか？

はい 135 名 (58%) いいえ 73 名 (32%) 無回答 24 名 (10%)

3. 本日のセミナーに関して意見や感想を記入して下さい。

- ・将来は、医療用工具を作る職に就きたいと考えています。今後、世界の人口は増え、日本も少子高齢化により、医療の大切さが現在よりも重要視されていくと思う根拠をグラフで示していただいて、自分の進む道の重要度について少しでも理解できたと考える。
- ・地域活性化に感じたのは、自分たちが使っていたNCの機械がヤマザキマザックの機械だったので、この中部地方を活性化するためにマザックの機械などを提供しているのならとてもすごいと思った。
- ・仕事に必要な能力が Global、Internet、Speed、個であると言われていたので、それを意識して就職活動、就職後頑張っていきたいと思いました。
- ・「地域」「活性化」「リスク管理」自分も今回の話を聞いて地域活性化できる企業にも目を向けて就職活動をしていきたいと思いました。
- ・大企業が法律を守らずに問題になっていることが多い今、「法律を守って製品製造に取り組む」ことはとても大切だと思いました。
- ・私自身、岐阜県出身という事で地元に戻り、学んできたスキルを發揮できるようにしていかなければならないと感じた。また、工業技術の話が聞けて違う道ではあるが、新たなスキルにつながったと思います。これからの就職活動に役立てられたら良いです。
- ・この東海地方には多くの工業系の会社があり、高い技術力のある優れた企業が多数あることがわかった。このような企業があり、どのように世界に貢献しているのかを地元の人に知ってもらいたいと共に、そのような企業で働いて地域活性化を活発にしていきたいと思いました。
- ・自分が将来どのような職種につけばよいのかのビジョンが明確になったと思う。世界での地位を獲得している会社ではやはり英語が大切なのだと感じた。

他

(3) PBLぎふゼミ

自分らしくって?
自分の持ち味を
知りたい

リーダーシップを
発揮したい

コミュニ
ケーションが
不安...

チームになるとは
どういうこと?

地域貢献に
興味がある

人見知りして
うまく話せない
グループワークが
苦手!

そんな学生の皆さんへ

PBLぎふゼミ

地域・社会で活躍したい! その一歩を応援します

「PBLぎふゼミ」は、「岐阜」地域を学びの材料とし、学生自身が自分の持ち味を発揮して地域や周囲に関わっていくための力を身に付けることができる体験型学習です。
自分の新たな一面も見つかるかも?! 気軽にご参加ください。

2016年8月29日(月)・30日(火) <2日間連続プログラム>

両日とも 9:30 ~ 17:30 中部大学 2511講義室 (25号館1階)

対象: 全学部1~4年生 定員: 40名 (先着順、定員になり次第募集終了) 受講料: 無料

申込み方法: 氏名・学籍番号・学年・携帯番号を電話かEメールでお知らせください(締切7月21日)

※この「PBLぎふゼミ」は、中部大学認定「地域活性化リーダー」資格取得に必須です。

テーマ

「自分が何かを学ぶときのスタイルを探求する」「自他の価値観について探求する」
「コミュニケーションについて体験的に学ぶ」「課題解決のプロセスを体験する」etc.



文部科学省
地(知)の拠点

平成27年度採択 文部科学省地(知)の拠点
大学による地方創生推進事業(COC+)

中部大学 地域連携教育研究推進部 (16号館3階)

http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/ ダイヤルイン 0568-51-1763
E-mail: plus@office.chubu.ac.jp 担当: 丹羽・早川

PBL ぎふゼミの様子



挨拶
地域・国際連携教育研究センター 松尾センター長



主旨説明
伊藤准教授（生命健康科学部）



個人ワーク



グルーピング



グループディスカッション



発表



プレゼントカード交換



振り返り
上野講師（応用生物学部）

2016 年度
中部大学 御中

『PBL ぎふゼミ』

アンケート集計結果
報告書

2016 年 9 月

株式会社ラーニングバリュー

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBL ぎふゼミ』アンケート集計



目次

プログラム概要 3

【受講前アンケート】 4

Q 1. このプログラムに期待していますか? 5

Q 2. PBL ぎふゼミに参加を決めたきっかけは何ですか? 7

Q 3. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身につけていますか? 9

【受講後アンケート】 10

Q 1. このプログラムに満足しましたか? 12

Q 2. このプログラムを受け、自分自身に対して、新たな発見がありましたか? 14

Q 3. このプログラムを受け、「相手のことを知る」ことに変化がありましたか? 16

Q 4. このプログラムで、グループのメンバーに自分のことをわかってもらえましたか? 18

Q 5. このプログラムを受け、授業への取り組み姿勢に変化がおきそうですか? 20

Q 6. このプログラムを受け、今後の学生生活に変化がおきそうですか? 22

Q 7. このプログラムを体験してどのような力や姿勢が身につくそうだと思いますか? 24

Q 8. 興味のあるプロジェクトはありますか? (複数選択) 25

Q 9. このプログラムの講師について感じたことを自由にお書きください 26

Q 10. このプログラムについて感じたこと、気づいた点などを自由にお書きください 28

【受講前・後比較】 29

受講前Q：それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身につけていますか?

受講後Q：このプログラムを体験してどのような力や姿勢が身につくそうだと思いますか?

* アンケートのフリーコメントについては、記入されたままを再現しています

プログラム概要

■プログラム対象：PBL ぎふゼミ参加希望者

■実施日時：2016年8月29日(月)～30日(火) 両日ともに9:30～17:30

■実施会場：25号館2511教室

■アンケート回答者

受講前／30名

受講後／30名 ※うち1名がアンケート裏面の記載なし

■実施プログラム：下記の通り

中部大学 PBLぎふゼミプログラム

	1日目		2日目
9:30	①オリエンテーション あいさつ 本ゼミの狙い ②個人ワーク ・実習「あなたの学習スタイル」 解説 ③グループワーク ・グループビンゴ ・実習「記者会見」 ・ふりかえり	9:30	⑦個人ワーク・グループワーク ・実習「価値観について」 ・ふりかえり ⑧個人ワーク ・実習「私のライフポジション」 ・解説 ⑨個人ワーク・グループワーク ・実習「私を活かすコミュニケーション」 ・解説
	昼食		昼食
	④グループワーク ・実習「総当たりインタビュー」 ・ふりかえり ⑤グループワーク ・実習「コンセンサスを求めて」 ・実習のふりかえり ⑥まとめ		⑩グループディスカッション ・実習「岐阜を取り巻く現状について考える」 ふりかえり ⑪個人ワーク・グループワーク ・実習「イメージ交換」 ⑫個人ワーク・グループワーク ・私の得たこと、学んだこと ⑬まとめ
17:30		17:30	

*プログラムの内容や進行については状況により変更の可能性がございます。ご了承下さい。

『PBL ぎふゼミ』アンケート集計

受講前アンケート

■実施アンケートは下記のアンケートを使用（片面）

PBL ぎふゼミ 事前アンケート 2016年8月29日
 おはようございます PBL ぎふゼミ受講前の今のみみなさんの率直なお気持ちをお聞かせください。よろしくお願ひします。

学部名 _____ 学部 _____ 学科名 _____ 学科 _____ 学年 _____ 年 [男・女] 氏名 _____

Q1. あなたはこのプログラムに期待していますか？
 それはなぜですか？

ぜんぜん期待していない	あまり期待していない	どちらともいえない	やや期待している	とても期待している
-------------	------------	-----------	----------	-----------

[_____]

Q2. PBL ぎふゼミに参加を決めたきっかけは何ですか？
 (例：地域活性化リーダーに興味があった、友達に誘われた など)

[_____]

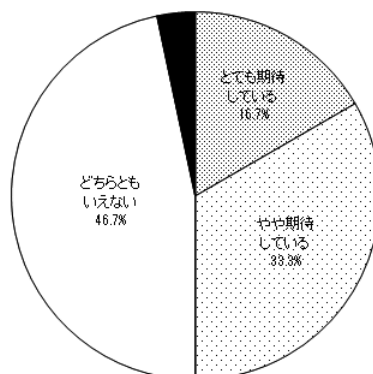
Q3. 以下のそれぞれの力や姿勢について、現在の自分に当てはまると思う番号に、それぞれ「○」をつけてください。

	身についていない	まったく	身についていない	あまり	どちらともいえない	身についている	やや	身についている	かなり
(1) 自分から物事に進んで取り組む姿勢/主体性	1	2	3	4	5				
(2) 周囲に対して働きかけ、影響を与える力/働きかけ力	1	2	3	4	5				
(3) 課題達成にむけて確実に行動する力/実行力	1	2	3	4	5				
(4) 現状を分析し、目的や課題を明らかにする力/課題発見力	1	2	3	4	5				
(5) 課題解決への道筋を考え、準備する力/計画力	1	2	3	4	5				
(6) 新しい価値や考え方を生み出す力/創造力	1	2	3	4	5				
(7) 自分の意見を分かりやすく伝える力/発信力	1	2	3	4	5				
(8) 相手の意見をじっくりと聴き、相手の意見を引き出す力/傾聴力	1	2	3	4	5				
(9) 自分の意見や立場にこだわり過ぎない姿勢/柔軟性	1	2	3	4	5				
(10) 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力/状況把握力	1	2	3	4	5				
(11) 社会のルールや人との約束を守ろうとする姿勢/規律性	1	2	3	4	5				
(12) ストレスの発生源に対応する力/ストレスコントロール力	1	2	3	4	5				
(13) なんにでも興味・関心をもつ姿勢/好奇心	1	2	3	4	5				
(14) 根気強くあきらめずにやりとげるしつこさ/持続力	1	2	3	4	5				
(15) うまく行かなくてもめげない姿勢/楽観性	1	2	3	4	5				
(16) 失敗を恐れずにチャレンジする姿勢/リスク・テイキング	1	2	3	4	5				
(17) 自分に対する自信	1	2	3	4	5				

ご協力ありがとうございました。2日間よろしくお願ひします!!

Q1. このプログラムに期待していますか？

このプログラムに期待していますか？



期待度		とても期待している	やや期待している	どちらともいえない	あまり期待していない	ぜんぜん期待していない	無回答
全体	30	5	10	14	0	0	1
		16.7	33.3	46.7	0.0	0.0	3.3

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント

【とても期待している N=5】

- 大学のこのようなプログラムに参加するのは初めてなので少しでも自分のタメになる事があると期待している
- ・多くの人と交流できる。⇒幅ひろい意見を聞くことができる
 - ・地域活性化に興味があり、将来に役立てたい
- 自他の様々な意見に触れることで、自分の中にある内気な性格を少しでも打開できる良い機会だと思えたから。地元 長野の創生、活性化に活用しようと思ったからです。
- 元から色々な資格がほしいとっていて、その中で地域活性化リーダーという資格を知り、それが取れるプログラムだと知ったから
- コミュニケーションを取ったり、グループワークしたりすることが得意ではないため、このプログラムを期に少しでも克服したいと考えているため

【やや期待している N=10】

- 社会で生きていく上で役立つと思ったから
- 自ら他人に働きかける事やコミュニケーションを取ることが苦手なため、自ら積極的に働きかけるようにしたい
- 普段できないような経験ができれば良いと思う。

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBL ぎふゼミ』アンケート集計



- 普段関わりのない学部・学年も違う学生が交流して、一つの答えを導いていくことに興味があるから
- 岐阜県に詳しくなれそうだから
- 何事にも向き不向きがあり、うける人によって違って来るためである。参加する以上、少しでも自分にプラスになるように努力します。
- ・緊張しやすいタイプなので、そこを少しでも克服出来るようになりたい。
・ディスカッションの経験を積みたい”
- 何をするのかいまいちよく分かっていないけど、何か始めるチャンスになりそうだから
- ・問題解決への考え方を見に付けれるのではないかと思うため。
・不安もある”
- 地元が岐阜なので今回のゼミでこれからの自分に何かプラスになるものがあると思うから。

【どちらともいえない N=15】

- PBL ぎふゼミは地域活性化リーダーを取るために必要なもので、そういう面では期待しているが、課題解決型学習という今回の本質的な面では、日々の学校生活でいつも行っていることなので期待感はない
- 何をするかよくわからないから
- 内容、どんなことするのかわかってないから
- 地域活性化リーダーを目指すものなので、来年社会人になった際に何か役立つものがないかと期待しています
- まだ、何をやるのか付帯的に分かってないので
- やる気はあまりないが、このプログラムで成長することができるかもしれないから
- どんなことをするのか全く分からないから
- このプログラムによってどうなるのか、特に考えてなかったから
- 何をやるのか想像できないから
- 内容の詳細を調べずに来てしまったため
- 内容がよくわかっていないため
- 自分の研究室配属の企画として参加したもので初めてということもあり、まだしっかりとどういったものか理解していないため
- 内容がよく分からないので。
- やる内容がいまいち理解していないから。

【無回答 N=1】

- 地域活性化リーダーという資格を取得できるということ、また、それになれば自分の地元の地域を活性化することができるのではないかと思いを期待しています

Q 2. PBL ぎふゼミに参加を決めたきっかけは何ですか？

(例：地域活性化リーダーに興味があった、友達に誘われた、など)

フリーコメント

※期待度別で記載

【とても期待している】

- 先生に誘われた
- ・地域活性化リーダーに興味があった。⇒地元 岐阜県の貢献に関われるのでは？
・上野先生から紹介された。”
- 岐阜側の取り組みについての探究を深め、地元の取組みと比較し、出身地が一地域として地域活性化・地域づくりが成功するにはどうすればよいかを見つめ直すことができる場だから。
- 地域活性化リーダーに興味があった
- ゼミの先生からの誘い

【やや期待している】

- 先生に誘われたから
- ゼミの先生に勧められたため
- 教授が授業中に紹介していたため
- 地域活性化リーダーに興味があり、参加したいと思ったから
- 地域活性化リーダーになってみたいから
- 友達に誘われ可能性があったため
- 研究室(ゼミ)配属メンバーでの企画参加(力をつけるため)
- 授業でチラシをもらった
- 先生に誘われた
- 先生からの紹介

【どちらともいえない】

- 地域活性化リーダーに興味があったため
- ・誘われたから
・コミュニケーション能力に不安があったから”
- 先生に誘われた
- 上野先生に誘われた
- 地域活性化リーダーに興味があったから
- 先生に誘われた
- 地域活性化リーダーを取得したかった
- 先生に薦められた

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBL ぎふゼミ』アンケート集計

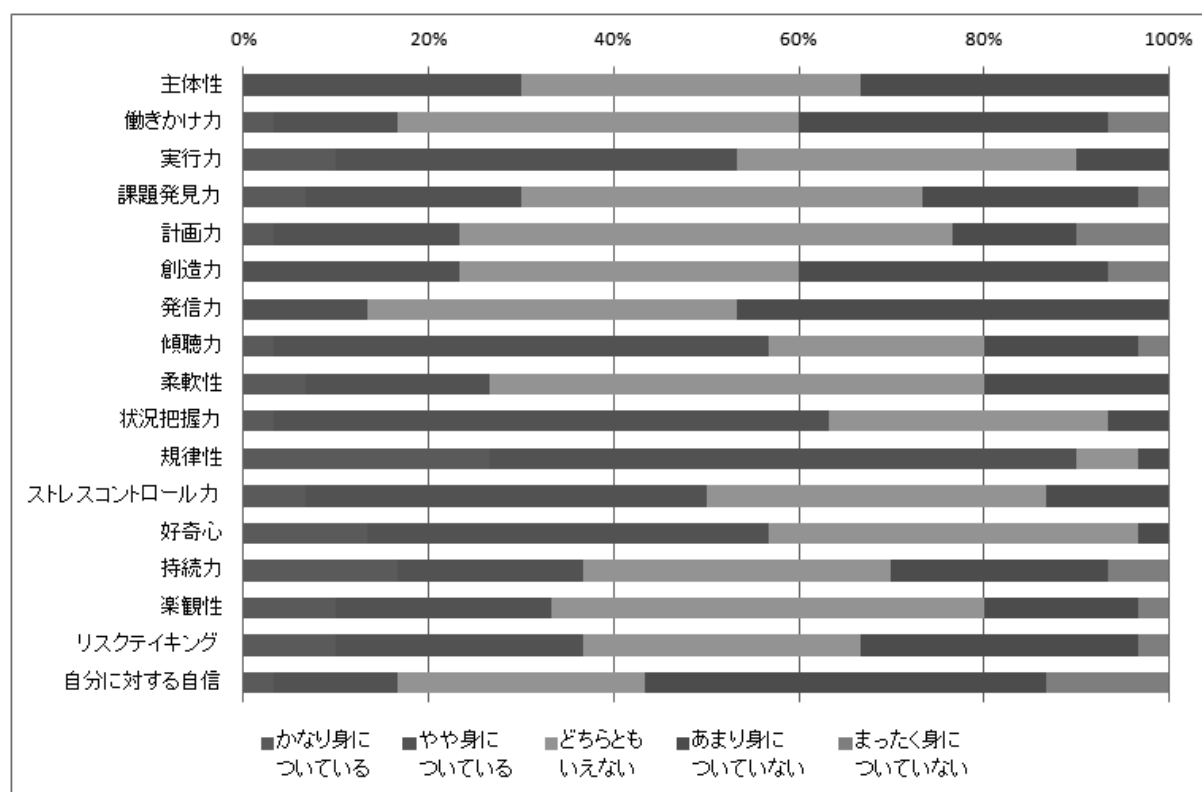


- ・夏休みにすることが特になかったから。
 - ・人見知りが少し良くなると思ったから”
- 資格が取得するのに必要だと知ったから
- 研究室の先生におさそい頂いたため
- 先生に誘われたから
- 研究室配属の企画提案に参加
- 先生に誘われた。
- サマースクールに申し込んだ際、紹介されたから

【無回答】

- 地域活性化リーダーの項目にふるさと志向というのが書いてあり、地元に貢献できるような資格なのではないかと思い参加しました。

Q3. それぞれの力や姿勢について、現在の自分に当てはまると思う番号に、それぞれ○をつけてください。



N=30	サンプル数	かなり身につけている	やや身につけている	どちらともいえない	あまり身につけていない	まったく身につけていない
主体性	30	0.0	30.0	36.7	33.3	0.0
働きかけ力	30	3.3	13.3	43.3	33.3	6.7
実行力	30	10.0	43.3	36.7	10.0	0.0
課題発見力	30	6.7	23.3	43.3	23.3	3.3
計画力	30	3.3	20.0	53.3	13.3	10.0
創造力	30	0.0	23.3	36.7	33.3	6.7
発信力	30	0.0	13.3	40.0	46.7	0.0
傾聴力	30	3.3	53.3	23.3	16.7	3.3
柔軟性	30	6.7	20.0	53.3	20.0	0.0
状況把握力	30	3.3	60.0	30.0	6.7	0.0
規律性	30	26.7	63.3	6.7	3.3	0.0
ストレスコントロール力	30	6.7	43.3	36.7	13.3	0.0
好奇心	30	13.3	43.3	40.0	3.3	0.0
持続力	30	16.7	20.0	33.3	23.3	6.7
楽観性	30	10.0	23.3	46.7	16.7	3.3
リスクテイキング	30	10.0	26.7	30.0	30.0	3.3
自分に対する自信	30	3.3	13.3	26.7	43.3	13.3

(%)

『PBL ぎふゼミ』アンケート集計

受講後アンケート

■使用アンケートは下記の通り（両面）

表面

PBL ぎふゼミ 受講後アンケート 2016年8月30日

学部名 _____ 学部 _____ 学科名 _____ 学科〔男・女〕グループ名 _____ 氏名 _____

Q1. あなたはこのプログラムに満足しましたか？
それはなぜですか？

	ぜんぜん満足 しなかった	あまり満足 しなかった	どちらとも いえない	満足した	とても 満足した

Q2. あなたはこのプログラムを受け、自分自身に対して、
新たな 発見がありましたか？それはどんな点ですか？

	全く なかった	あまり なかった	どちらとも いえない	多少は あった	いっぱい あった

Q3. あなたはこのプログラムを受け、「相手のことを知る」
ことに変化がありましたか？それはどんな点ですか？

	全く なかった	あまり なかった	どちらとも いえない	多少は あった	いっぱい あった

Q4. あなたはこのプログラムで、グループのメンバーに、
自分のことをわかってもらえましたか？
それはどんな点ですか？

	全くわかって もらえなかった	あまりわかって もらえなかった	どちらとも いえない	わかって もらえた	とてもよく わかって もらえた

Q5. あなたはこのプログラムを受け、普通の授業への取組み
姿勢に変化がおきそうですか？どんな変化ですか？

	全く 変化しない	あまり 変化しない	どちらとも いえない	多少は 変化しそう	とても 変化しそう

Q6. あなたはこのプログラムを受け、今後の学生生活に
変化がおきそうですか？どんな変化ですか？

	全く 変化しない	あまり 変化しない	どちらとも いえない	多少は 変化しそう	とても 変化しそう

裏面に続く

裏面

- Q7. このプログラムを体験して、どのような力や姿勢が身についた(つきそうだ)と思いますか？
以下のそれぞれのカラや姿勢について、この授業を通してどの程度身につくと思うか、該当する番号1つにそれぞれ「○」をつけてください。

	身 につ いて いな い	ま った く 身 につ いて いな い	あ ま り 身 につ いて いな い	ど ち ら も い え な い	身 につ いて い る	や や 身 につ いて い る	か な り 身 につ いて い る
(1) 自分から物事に進んで取り組む姿勢/主体性	1	2	3	4	5		
(2) 周囲に対して働きかけ、影響を与える力/働きかけ力	1	2	3	4	5		
(3) 課題達成にむけて確実に行動する力/実行力	1	2	3	4	5		
(4) 現状を分析し、目的や課題を明らかにする力/課題発見力	1	2	3	4	5		
(5) 課題解決への道筋を考え、準備する力/計画力	1	2	3	4	5		
(6) 新しい価値や考え方を生み出す力/創造力	1	2	3	4	5		
(7) 自分の意見を分かりやすく伝える力/発信力	1	2	3	4	5		
(8) 相手の意見をじっくりと聴き、相手の意見を引き出す力/傾聴力	1	2	3	4	5		
(9) 自分の意見や立場にこだわり過ぎない姿勢/柔軟性	1	2	3	4	5		
(10) 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力/状況把握力	1	2	3	4	5		
(11) 社会のルールや人との約束を守ろうとする姿勢/規律性	1	2	3	4	5		
(12) ストレスの発生源に対応する力/ストレスコントロール力	1	2	3	4	5		
(13) なんにでも興味・関心をもつ姿勢/好奇心	1	2	3	4	5		
(14) 根気強くあきらめずにやりとげるしつこさ/持続力	1	2	3	4	5		
(15) うまく行かなくてもめげない姿勢/楽観性	1	2	3	4	5		
(16) 失敗を恐れずにチャレンジする姿勢/リスク・テイキング	1	2	3	4	5		
(17) 自分に対する自信	1	2	3	4	5		

- Q8. 「地域活性化リーダー」に向けた活動は以下の内容があります。興味のあるプロジェクトの記号に○印をつけてください。(複数選択可)

a.企業向け成果発表会 b.岐阜企業展 c.サマースクール
d.企業見学会 e.地域活性化型インターンシップ f.フィールド活動@ぎふ

- Q9. このプログラムの講師について感じたことを自由にお書きください

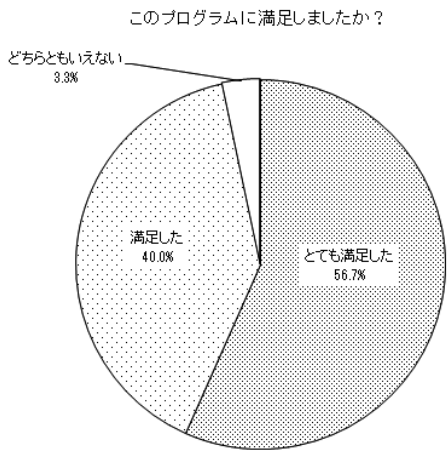
- Q10. 最後に、このプログラムについて感じたこと、気づいた点などを自由にお書きください

アンケートは以上です。2日間お疲れ様でした。

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBL ぎふゼミ』アンケート集計

Q 1. このプログラムに満足しましたか？それはなぜですか？



満足度		とても満足した	満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	ぜんぜん満足しなかった	無回答
全体	30	17	12	1	0	0	0
		56.7	40.0	3.3	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント

【とても満足した N=17】

- 新しい自分を発見することができた。
- ・自分の知らないことを知ることができた。
 - ・知らない自分を知ることが出来たため。
- 自分自身、話す、聞くにおいて成長できたのではないかと感じたから。
- ・今までやったことのない内容ばかりで面白かった。
 - ・普段接点のない人とたくさん話すことができた。
- グループで議論しあえたこと、様々な意見を得られたこと。
- 自己理解をこのプログラムでしていく中で、自分の知らないことを多く知ることが出来たから
- 人としっかり意見を合わせて話し合いをしていく機会があまり無く、これを通して自他共にいろいろなことを考えることができたから
- 今まで気付かなかった、知らなかったことが分かったし、コンセンサスの経験が積めた
- 様々な分野のものを“コンセンサス”形式で話し合うことがとても新鮮で、相互理解にもつながったから
- 自己理解を深めることができたし、普通にはできない経験だから
- 色々な人とたくさん交流できたから
- 様々な年代、学部で話し合うのはいろいろな意見が聞けておもしろかった。



- 自分の人間性やコミュニケーションの大切さに改めて気づくことが出来たことやグループワークで考える楽しさを知れたから。
- 自分について知ることができた。グループの大切さ、難しさが分かった。とても面白かったです。
- 普段はグループワークなどあまりないのでいい経験になった。他学科の人との交流もできて良かったです。
- 自分が最初に思っていたものとは違い、自分自身の考え方について受講前とは変ったと感じました。
- 普段話せない人と話せたし、グループワークをして自分に足りない点を確認できた。【満足した】

【満足した N=12】

- 地域を考える上での合意に必要な意思決定について学べたため
- 初対面の人とでもうまく話せたため
- 今までやったことがないことをたくさん体験できたから。
- 普段知らない人と意見を出し会う機会はなかなかないから。同じグループの人と仲良くなった。
- いろんないけんがきけた
- 話し合いがたのしかった
- 全く知らない人達とグループで、どうなるかと思ったけど、最後にはその人達のことがだいたい理解できて、色々話をできたから
- やっていて楽しかった。自分の苦手が少し克服できた。
- 自分に持ち味を理解できたから。コンセンサスのように相手の意見を理解することの重要性を感じたから。
- 楽しかったです。
- いろんな人と話ができて、話し合いのときにどうしたらいいかが分かった。
- とても充実して得るものがたくさんあったからこのプログラムに参加したことで初めての人と話す機会ができたからです。

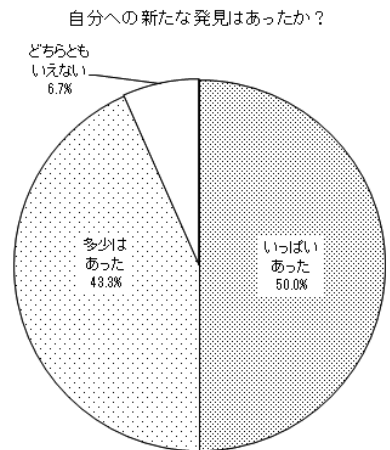
【どちらともいえない N=1】

- 長かったし、同じことのくりかえしでつらかった。グループ変更とかあったら気持ちの切り替えができたかも

『PBL ぎふゼミ』アンケート集計



Q 2. このプログラムを受け、自分自身に対して、新たな発見がありましたか？それはどんな点ですか？



自分自身への新たな発見		いっぱいあった	多少はあった	どちらともいえない	あまりなかった	全くなかった	無回答
全体	30	15	13	2	0	0	0
		50.0	43.3	6.7	0.0	0.0	0.0

(上段:人,下段:%)

フリーコメント

【いっぱいあった N=15】

- 意外にも、初対面の人と気兼ねなく話せる点、思考が偏っている点
- ・初対面の人と話せるということ。
 - ・長い時間話せるということ
- ・自分はしっかり主張できる。
 - ・興味を持たせるような話しができる。
- ・話すことも聞くこともできていた。
 - ・初めて会った人とも怖がらず目を見て話せる点”
- 自分が周りからどう思われているのか、自分はどんな人間なのか見つめ直すことができた。
- 話している相手の目を見て聞くことの大切さ。自分の意見に自信を持つ。
- リーダーシップがあるとされたこと。人の話をさえぎってしまっていること。
- 話し合いの中で、自分の発言と聞き手にまわるバランスが良いことや、意見を総まとめする力など、自分の知らないことを多く発見できた。
- ・思った以上に自分から意見が言えた
 - ・反対意見が中々言えない



- 元々話を人前でするのは苦手だったけど、他の人から「話は分かりやすいから積極的に」とアドバイスをもらい、分かりやすく話せていた点を発見した
- 自分はコミュニケーションは本当に親しい人としか上手くなかったのが、今回、意見を主張できた自分を発見できました。
- 自分の人間性と他人から見た自分はこうなんだという新たな自分を発見した点
- 新たな長所、改善すべき点を知ることができた。柔軟性も重要である点。
- 他人とグループワークをすることで自分では考えなかったことを得ることができた。聞く力はあるが話す力がないできて、話し合いのときにどうしたらいいかが分かった。

【多少はあった N=13】

- 自分の知らない自分のタイプが他者がいることで分かったため
- 人の話を聞き、それをうまくまとめられる点
- 自分はどちらかというと、話を受けるのが強いと思っていたが、発信する力の方が大きいこと
- 視点が違うことによるものの価値感
- 意外と話せる
- 自分の傾向がどんな風になっていて、なぜそうなっているか考えることができた。また、他人のアドバイスからも。
- 自分では持ちあじの欠点しか思いうかばないが、こういう考え方もあるのかと良い点を見つけられたから。
- 自分の今までしてきた聞く姿勢が良かったこと
- まだまだ言葉がつかない、うまく話せない。ただ、周りが聞く姿勢でいてくれたため、積極的に話せた。
- こんなに人の話を聞いて、話の進行ができていたこと
- もっと積極的に、自分が思っている以上に発言してもいいと思った。
- 積極性はあるので、他の人の意見を引き出すべきであること。I'm OK You're OK タイプであること。
- 人と話すことに苦をあまり感じなかった

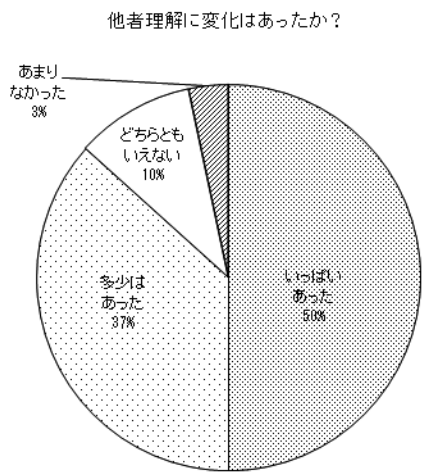
【どちらともいえない N=2】

- 人の話をきくのはムズかしい
- ひっこみじあんだと再確認しました。

『PBL ぎふゼミ』アンケート集計



Q3. このプログラムを受け、「相手のことを知る」ことに変化がありましたか？それはどんな点ですか？



他者理解に変化		いっぱいあった	多少はあった	どちらともいえない	あまりなかった	全くなかった	無回答
全体	30	15	11	3	1	0	0
		50.0	36.7	10.0	3.3	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント

【いっぱいあった N=15】

- 見た目が大人しそうでも、自分の意見を持っていて、はっきりと主張ができると気付いた
- 相手のことを知るという前段階である話を聴く態度、姿勢などを知ることができた。それをする事によって相手との距離も縮まった気がした。
- 先入観なしに話を聞くことの重要さを感じた。表情を見るのも大切だと分かった。
- 意見が大きく違う人でも否定するのではなく、聞いてみるという考えになった。
- 相手のことに興味を示さないこともあったが、プログラムを通して、興味関心を持って、相手のことを多く知ろうと取り組めた。
- 相手と話を円滑に進めていくことが苦手だったが、コンセンサスを得るために話を進めていく中で相手を受け入れる気持ちが必要だと感じた
- 相手の意見で相手がわかると思った
- 相手のことを知ろうと耳を傾け、相槌を打つのが癖みたいになっていた。
- それなりに相手の(気持ち)を知らないと“コンセンサス”は進まないのだから、自分の言葉、主張がしっかり相手に伝わったかを本当に考えるようになりました。



- 人を知るためにたくさん質問して、話し合いの中でも相手のことがわかってきて最後のカードはスラスラ書けた。
- 相手のことを知るということはとても楽しく興味深いものなんだと知ることができた点
- 相手の話を最後まできちんと聞くことで相手を知ることができる
- 人によって同じ答えでも違う考えがあるということ
- どんな人か、いろんな情報からよみとれて、理解をすることで、話し合いで役立つことがある。
- 自分の考えだけで思いこむのではなく、相手を知ろうとすることが大切だと感じた。

【多少はあった N=11】

- 相手を知ることが音声だけではなく、表情などにも data があることが分かり、より自分の data を相手に伝え、相手の data を得るため努力ができるようになった
- 自分から話かけていくことで、相手もより話しやすく、深くまで話すことができる。
- みんな意見が違うが、それぞれに納得できる部分があるということを感じた。
- きちんと目を合わせて、喋り方や表情に気を配るようになった。
- この人はどんな人だろうと興味を持つ。
- インタビューで好きなものを知ったときは合わなそうと思ったけど、もっとよく知ると分かりあえるし、良いところも知られるなと思った
- 相手の意見が違うときに、どうしてそう考えたのかを知ることによってなっとくできる点
- 目を見て話をきいたりするようになった。
- 話を聞く中で相手の言いたい本音などがわかるようになってきた気がしました
- 相手の言葉だけではなく表情からも気持ちをくみ取ることができる点
- 受け入れようとした

【どちらともいえない N=3】

- 日々かんじていること
- コンセンサスを得るときに多少は知ることができたけど、まだ知らないことがたくさんあって、あまりプレゼントカードが書けなかった。
- 日頃から大切にしていることを実行した

【あまりなかった N=1】

- 前からできてた

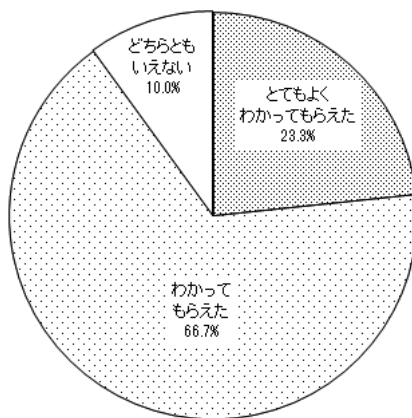
2. 活動報告<学内プログラム>

『PBL ぎふゼミ』アンケート集計



Q 4. このプログラムで、グループのメンバーに、自分のことをわかってもらえましたか？どんな点ですか？

自分のことをわかってもらえたと思うか？



自分のことをわかってもらえたか		とてもよくわかってもらえた	わかってもらえた	どちらともいえない	あまりわかってもらえなかった	全くわかってもらえなかった	無回答
全体	30	7	20	3	0	0	0
		23.3	66.7	10.0	0.0	0.0	0.0

(上段:人,下段:%)

フリーコメント

【とてもよくわかってもらえた N=7】

- 自分の趣味、少し変わっているけれど、変な顔をせず笑って色々なことを聞いてもらえた！
- 明るくて楽しそうな人間
- 明るさや積極性
- 積極的な所
- 最後のメッセージで自分の知らなかったことまで言ってくれて、たった2日間だけどたくさん話すことでこんなにもわかってくれると驚いた。
- 自分の特徴
- インタビューや1対1の時、たくさんの質問をしてくれた

【わかってもらえた N=20】

- 自分の話をきちんとわかるまで聞いてくれる人がいた
- 聞く姿勢や思いやりを大切にしているが、最後持ち味の発表でほめてもらえた
- 話をうまく引き出す所か、話が行き止まった時に別の話題に切り換えられるなど、メンバーに教えてもらえるところも多かった。
- 話をまとめてから話すこと



- 自分のプロフィールや考え方
- 割と冷めた考え方をしてしまう点。
- 自分が冷静に考えることや自分の自信がないことをメンバーは気づいて、プレゼントカードなどに記してくれた点。
- 自分のとくちょうをとらえてもらった
- せっきよ的
- 意見はしっかり持てているところ
- 積極性が足りない点
- ある程度、積極性はある、ということはわかってくれたと思います。
- 自分が人の意見に対してはたくさん発言できるが、自分の意見はあまり言えてなかったところをほぼ全員に指摘を受けたから
- すごく優しい先ばいばかりでうれしかったです。
- 自分があまり前に出て発言ができないこと
- 自分はこういう考えを持っているんだということを意見として言えたことや性格をグループワークから知ってもらえたと感じる
- 会話は進んでできたので話しやすいと思ってもらえた
- グループワークをして、自分の意見がしっかり言える人だという点
- 話が好きで積極的だけど、他の人の話にもっと耳をかたむけることができる点
- はっきりとものを言うこと

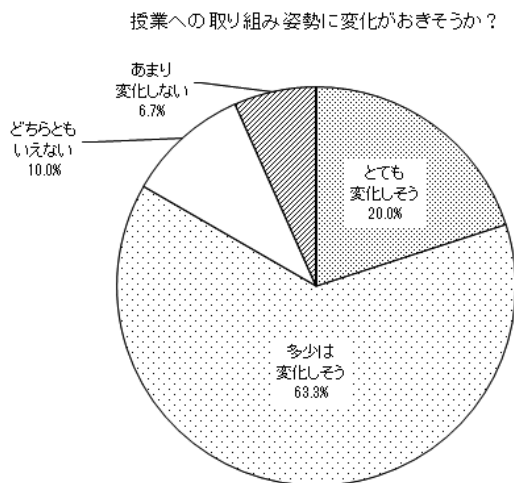
【どちらともいえない N=3】

- 素は出せないで理解されていないとおもう
- 自分の中でえんりよしがちなのは自分でもわかっていて、そこがわかってもらえたと思う。
- 私自身を伝えることは苦手で、わかってもらえたかよく分からない。ただ、良い人達ばかりでした

『PBL ぎふゼミ』アンケート集計



Q5. このプログラムを受け、授業への取り組み姿勢に変化がおきそうですか？どんな変化ですか？



授業への取り組み姿勢に変化がおきそう		とても変化しそう	多少は変化しそう	どちらともいえない	あまり変化しない	全く変化しない	無回答
全体	30	6	19	3	2	0	0
		20.0	63.3	10.0	6.7	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント

【とても変化しそう N=6】

- 人の意見をきいて参考にしてみる。以前は先生の言うことを大きく優先していた。
- 相手を話し合う時や個人で取り組む際に、このプログラムで学んだことが生き、変化していくと思うからです。
- 周りを良く見て、しっかりと自分の意見や先生の話聞くということに前向きに取り組めそう
- グループワークの際に今日学んだことを生かしたい(目を見る、聞く姿勢など)。柔軟性を持つことにも生かせそう。
- 人の意見を聴いて、それを自分とてらし合わせること
- 自分から積極的に参加できると思いうれしそうです。

【多少は変化しそう N=19】

- 先生のタイプによって講義を受ける人を変えれそう。ex) 上野先生は右側前
- 話し合いの際には、話題の転換や鋭い質問ができるように心がけたい
- 知ろうとする気持ちは前よりある気がする。



- 物の見方や考え方、話し合い
- 自分から動けるようになりたい。誰かが動くのを待つのではなく率先して行動できる自信を持つようにする。
- 自分のことだけで完結せず、もっと先のことまで考えられるようになりたい。
- 積極的に行動すること
- 聞く姿勢
- 注意深くきくことができると思う。
- 聞くことと、自分の考えと比較することがもう少しスムーズになって理解しやすくなるかも
- 話し合い
- わからない問題をたずねたりなど、身近な所から変えていこうと思います。
- 学科の活動などで積極的にまとめ役になれるような自信ができました。
- グループワークの時にコンセンサスに元づいて行動できそうだった。
- コミュニケーションを大切にしようかと思いました。
- 先生方の言いたい本音が、これを受けて少しは分かる気がするから
- 人の意見に耳をかたむけ、尊重していこうと思う。
- より積極的に授業に取り組もうと思いました
- 取り組むしつこさがでてくると思う

【どちらともいえない N=3】

- 4年生のため、普通の授業ではあまりないため
- ぐたいた的には思いつかない
- ゼミ等の話し合いで生かしていきたいけれど、たぶんすぐにはできないと思うないと思います。

【あまり変化しない N=2】

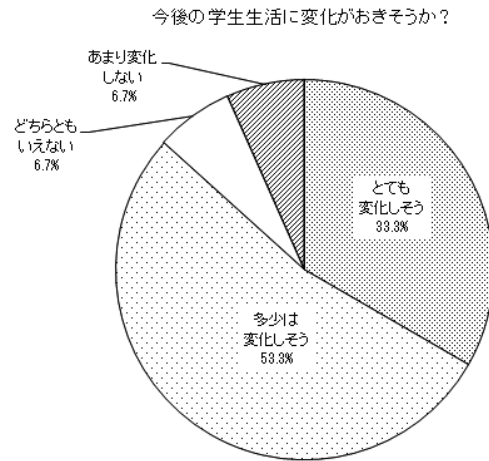
- 自分の感情をすなおにしたから
- 少し発言を増やせそう

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBL ぎふゼミ』アンケート集計



Q 6. このプログラムを受け、今後の学生生活に変化がおきそうですか？
どんな変化ですか？



今後の学生生活に変化がおきそう		とても変化しそう	多少は変化しそう	どちらともいえない	あまり変化しない	全く変化しない	無回答
全体	30	10	16	2	2	0	0
		33.3	53.3	6.7	6.7	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント

【とても変化しそう N=10】

- いろいろなことに挑戦していきたい。多くのことを体験して自分のものにしたい
- うまく説明できないが、視野が広がる気がする。
- 自分の学生生活もだが、社会に出てからも、プログラムで知った自分の持ち味を発揮していくと思うからです。
- 友達と話す時の姿勢が変化すると思います
- コミュニケーションの概念から変えあったので、友達付き合いなど、様々な所から変化していくと思います。
- 友人や先生との付き合い方がとても前向きになると感じる
- 地域活性化リーダーに興味を持った。
- いろいろ考え方を学んだので、それを講義に活かされる
- 今回参加したことがこれから先にある課題に積極的に取り組むこと
- 自分の考えより、相手の気持ちの理解を優先してすごせるようになりそう



【多少は変化しそう N=16】

- 人間関係のはばが広がりそう
- 視野を広げるために、多くの人と関わったり、本を読んだりしたい
- 自分に自信を持っていけそう
- 自信がなかったことにも取り組んでいきたい。周りにあわせるのではなく自分で考えて動きたい。
- 初対面の人と交流する機会があれば、今までより上手く立ち回れると思う。
- 物事に積極的に取り組むこと。
- 人の話をきくようになる
- ちがう価値感ができてきそう
- もっと自信を持って話せるようになると良い
- スローガンを目標にして、積極的に行動すれば、色々なことを知れると思う
- 岐阜ゼミなどの課外授業に参加する回数が増えそうです。
- 自分の意見をはっきりいうようにしたい。
- 新しいことに挑戦してみたいです。
- 友人や先生と話したりする際に、自分の長所と短所はわかったので、それを近いしたうえで話せると思う
- ゼミの話し合いでも対立しても雰囲気よく話し合いができそう。
- こういった会に参加してみようと思った

【どちらともいえない N=2】

- 人と関わる機会が少ないので、あまり変化はしない気がする。
- 今後就職して、人と交流することが増えるので、そのときに活かしていきたいと思う。

【あまり変化しない N=2】

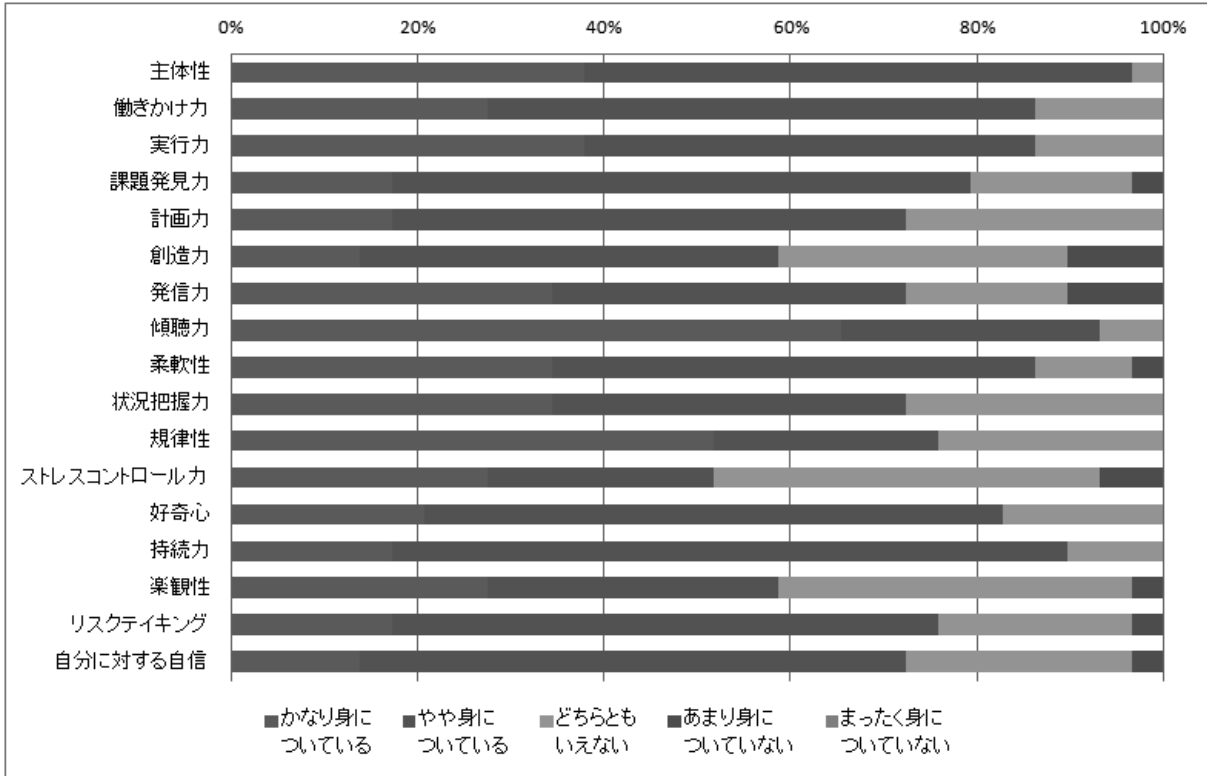
- 少しは積極的に話すかもしれない
- 討論は楽しいと思った。相手を尊重し、自分も尊重することを大切にしたいと思う

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBL ぎふゼミ』アンケート集計



Q7. このプログラムを体験してどのような力や姿勢が身についたとおもいますか？



N=29	サンプル数	かなり身についている	やや身についている	どちらともいえない	あまり身につけていない	まったく身につけていない
主体性	29	37.9	58.6	3.4	0.0	0.0
働きかけ力	29	27.6	58.6	13.8	0.0	0.0
実行力	29	37.9	48.3	13.8	0.0	0.0
課題発見力	29	17.2	62.1	17.2	3.4	0.0
計画力	29	17.2	55.2	27.6	0.0	0.0
創造力	29	13.8	44.8	31.0	10.3	0.0
発信力	29	34.5	37.9	17.2	10.3	0.0
傾聴力	29	65.5	27.6	6.9	0.0	0.0
柔軟性	29	34.5	51.7	10.3	3.4	0.0
状況把握力	29	34.5	37.9	27.6	0.0	0.0
規律性	29	51.7	24.1	24.1	0.0	0.0
ストレスコントロール力	29	27.6	24.1	41.4	6.9	0.0
好奇心	29	20.7	62.1	17.2	0.0	0.0
持続力	29	17.2	72.4	10.3	0.0	0.0
楽観性	29	27.6	31.0	37.9	3.4	0.0
リスクテイキング	29	17.2	58.6	20.7	3.4	0.0
自分に対する自信	29	13.8	58.6	24.1	3.4	0.0

(%)

Q 8. 地域活性化リーダーに向けた活動で興味のあるプロジェクトの記号に○印をつけてください。

興味のあるプロジェクト	a 企業向け 成果発表会	b 岐阜 企業展	c サマー スクール	d 企業 見学会	e 地域活性化型 インターン	f フィールド 活動@ぎふ	
回答者	29	2	6	12	10	7	9

(複数回答 N=29)

今回サマースクール不参加の1年生～3年生に限定すると下記の回答となります。

興味のあるプロジェクト	a 企業向け 成果発表会	b 岐阜 企業展	c サマー スクール	d 企業 見学会	e 地域活性化型 インターン	f フィールド 活動@ぎふ
回答者	11	0	3	6	2	1

(複数回答 N=11)

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBL ぎふゼミ』アンケート集計

Q 9. このプログラムの講師について感じたことを自由にお書きください

フリーコメント

※満足度別で記載

【とても満足した N=17】

- 人前で話すことがとても得意な人だと思った。しかし生徒と直接的なほとんどなく少し壁を感じた。題材が毎回同じような感じもした。
- 話がわかりやすく、楽しく聴くことができた。時間が足りない時は延長をするなどしてくれてゆっくりと真剣に取り組むことができた
- とても楽しいプログラムになるように自分たちを導いてくれた。楽しいだけでなく、役立つように解説してくれた。
- 話が面白くて聞きやすかった。否定されることがないのでグループ全員で色々な意見を言い合えた。
- おもしろおかしく説明してくださったりして、とても楽しかったです。2日間で学んだことを今後活かしていきたいと思います。
- 講師の藤田さんは、とても分かりやすくプログラムを進行していただいたこと、みんなが楽しめるよう、面白いことも話しながら進めていく中で、自然に入り込めていけました。
- ユーモアを交えて、生徒の生徒の動きに合わせてくれていたので楽しかった
- 明るく、親しみやすく、楽しく受講することが出来ました
- 解説おもしろいと思いました。それでいて理にかなっていると思いました。
- 常に私たちのことを理解して楽しく行っていただけたのでとても楽しかったです。ありがとうございました。
- 面白くて分かりやすかった
- とても面白い。まったくあきなかったです。私たちへの思いやりがとてもつたわってきた。様々なことを分かりやすく面白く学ぶことができたと感じる。何らかの形でまた話を聞いてみたいと思った。
- 笑顔でとても面白かったです。取り組む課題も興味を持ちやすいものが多くて、取り組みやすかったです。
- とても話し方が上手で自分たちにやりやすいようにしてくれた。やりやすい雰囲気をつくってくれた。
- とても明るくて面白い先生だと思いました。
- とても楽しくおもしろく話してくださって雰囲気のいい方だと思いました。



【満足した N=11】 ※「満足した」は12名ですが、1名裏面に記載なし

- おもしろいやなあ～、特に道路の話はごつつ受けたわ
- 休憩の時に話してくれたり、話しやすい人だと思いました。
- 聞きやすいように話して下さって、内容が理解しやすかった。
- みんなをまとめようとした
- たのしい人
- 面白い先生だった。話の中で笑うことがたくさんあった
- 人を飽きさせない楽しい内容の話でした
- 話し方や内容がおもしろいなと思いました。
- おもしろかったです。
- とても話が聞きやすいし、おもしろく、長い時間でも苦にならなかった。
- とても話し方の上手な人だと思いました。人をひきつける、楽しませる話し方だと思います。

【どちらともいえない N=1】

- おもしろい人

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBL ぎふゼミ』アンケート集計

Q10. このプログラムについて感じたこと、気づいた点などを自由にお書きください

フリーコメント（Q1の満足度別）

※満足度別で記載

【とても満足した】

- 自分や他者の理解が深まったのでよかった
- ・もう少し日程を分けてやりたかった。
 - ・グループの人が疲れて話し合いが進まなかったりしたため。
- 1~4年生までいろいろな人と交流できて良かった。
- 参加して良かったです。初めは何をするか全く分からない状態だったけれど、面白く楽しい内容ばかりでした。
- プレゼントカードが恥ずかしかった。
- 特にないです
- 相手と話す機会が多くて、つかれることも多かったが最終的には楽しかった
- このようなプログラムに参加したのは初めてだったけど、自分の新たな一面が知れました。
- 始めは長いと思っていましたが、終わってみたらあっというまで楽しかったです
- 討論は暗い雰囲気だと思っていたが、色々な話をしたり聞いたりすることはとても楽しかったし、
- 面白かった
- 最初、長いと思っていたけど時間はあっという間で、いろんな人と接することができてとても楽しかった。
- 人間の良さを知れる良い企画だと感じた。今後も出してみたいと感じた。
- いろんな人に勧めたいと思いました。2日間ありがとうございました。
- このようなことがあると知らなかったけれど、最初よりも達成感があった。
- グループワークを通して多くのことを学べる
- 長かったけど楽しかったです。

【満足した】

- 終わってみると充実した時間を過ごせたと思う。
- 色々なことが体験できて良かった。時間がもう少し短いと、気軽に参加しやすいと思う。
- 班をわけるところからおもしろかった。意見のきき方を学んだ
- 大学の道のりがいや
- 今回のプログラムを通して、自分の中で少し自身になることができたと感じた。
- 参加してよかったと思った。
- 初めはめんどくさいな~と思っていたけど、自分と全く環境や意見の違う人と話すことができよかったと思う。

受講前・受講後比較

【考察】

- 事前で学生が「かなり身についている」「多少は身についている」と答えた上位項目5つは「規律性」、「状況把握力」、「傾聴力」、「好奇心」、「実行力」。
反対に「あまり身についていない」「まったく身についていない」と答えた下位項目の5つは「自分に対する自信」、「発信力」、「働きかけ力」、「創造力」、「主体性&リスクテイキング」(同率)
- 事後で学生が「かなり身につく」「多少は身にいく」と答えた上位項目5つは「主体性」、「傾聴力」、「持続力」「働きかけ力&実行力&柔軟性」(同率)となっている。
- 反対に「あまり身につかない」、「まったく身につかない」の項目を見ると、「創造性」、「発信力」が全体の10.3%の回答で上位を占めており、「ストレスコントロール力」が全体の6.9%で次点となっている。
- 事前、事後で「身についている」と答えた項目で差が大きかった項目5つは
「働きかけ力」(事前 16.7% ⇒ 事後 86.2% 差 69.5%)
「主体性」(事前 30.0% ⇒ 事後 96.6% 差 66.6%)
「柔軟性」(事前 26.7% ⇒ 事後 86.2% 差 59.5%)
「発信力」(事前 13.3% ⇒ 事後 72.4% 差 59.1%)
「自分に対する自信」(事前 16.7% ⇒ 事後 72.4% 差 55.7%)
 となっている。(下線部は事前で下位項目5つに該当)
- 「規律性」の項目のみ事後よりも事前のほうが数値が高く出ています。他大学でもこの項目に関しては、事前から高く出る傾向がありますが、「限られた時間内でワークを終えることができなかつた」、「遅刻してしまった」などが理由で、「(自分が)思っていたよりも規律性がないのでは？」と考える学生もいるようで、事後で下がっているケースも見受けられます。
- 加重平均も示しました。

詳細は次項よりグラフを掲載いたします。

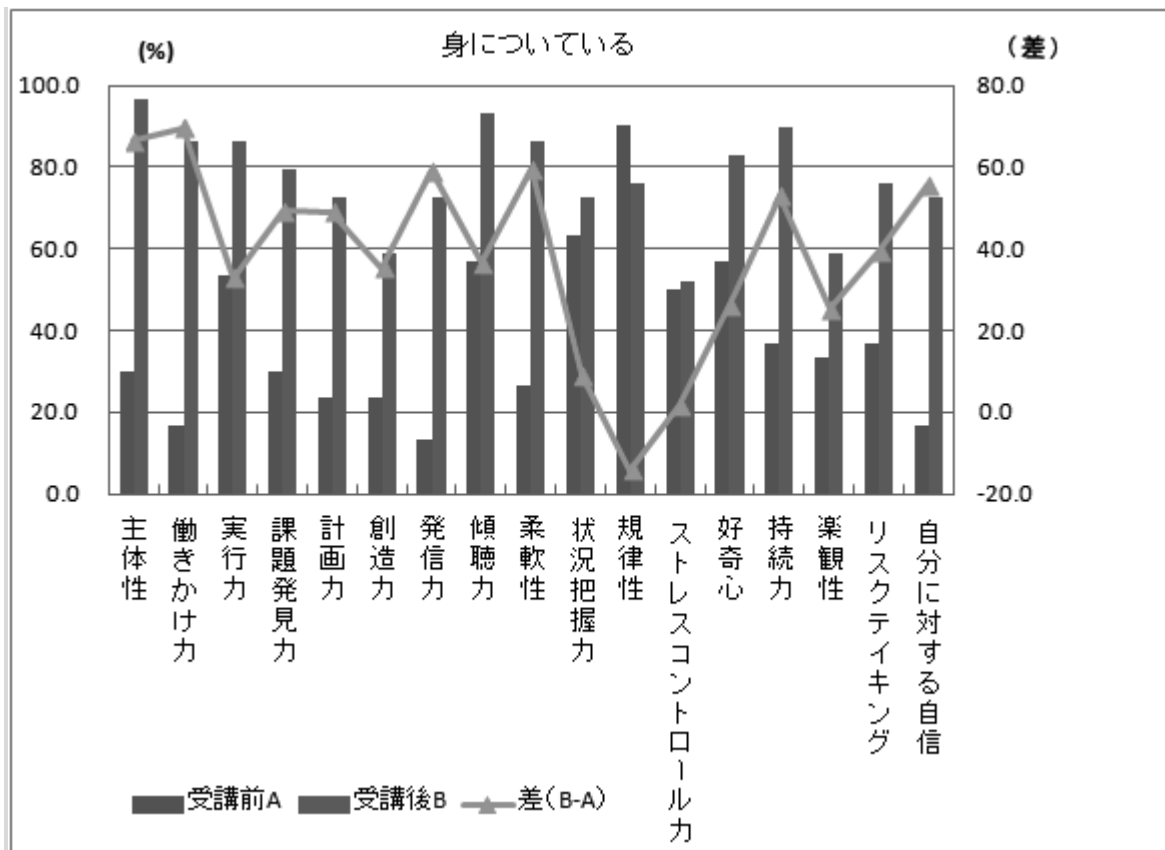
2. 活動報告<学内プログラム>

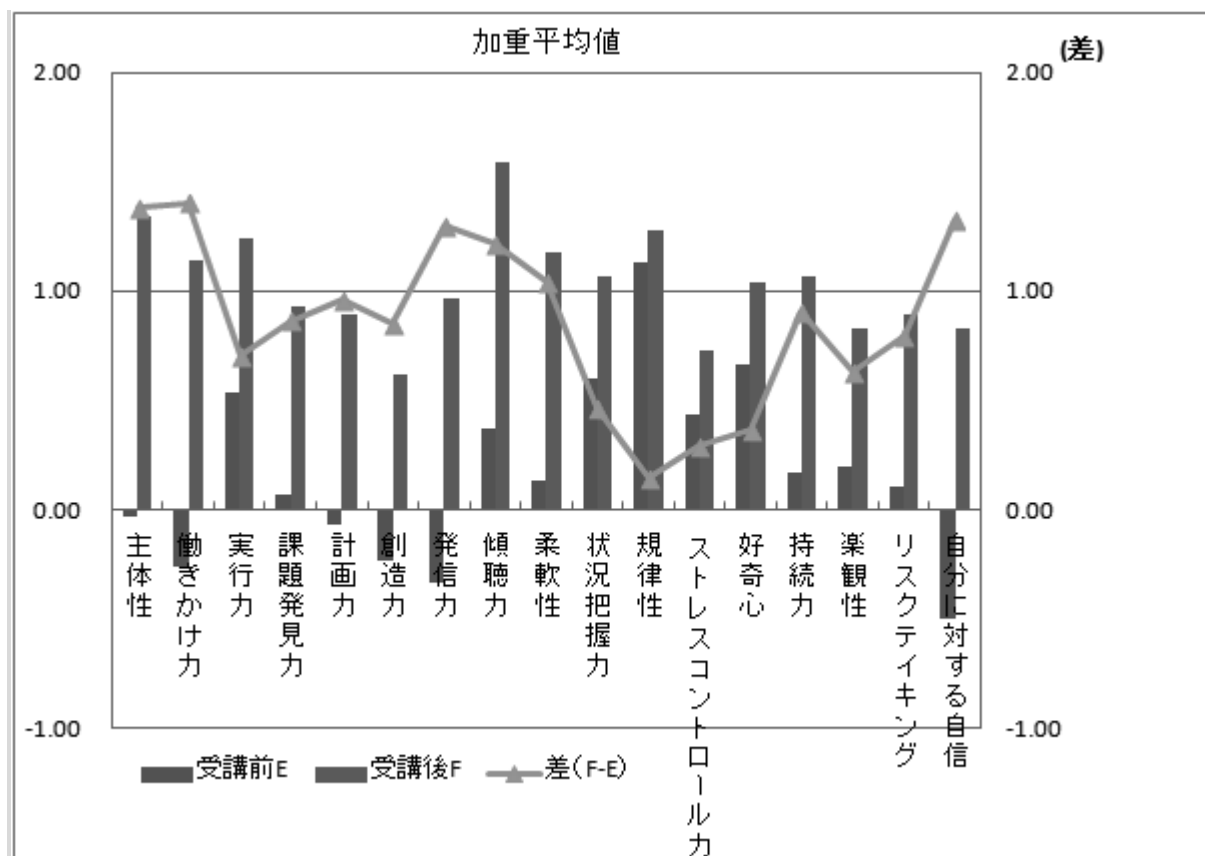
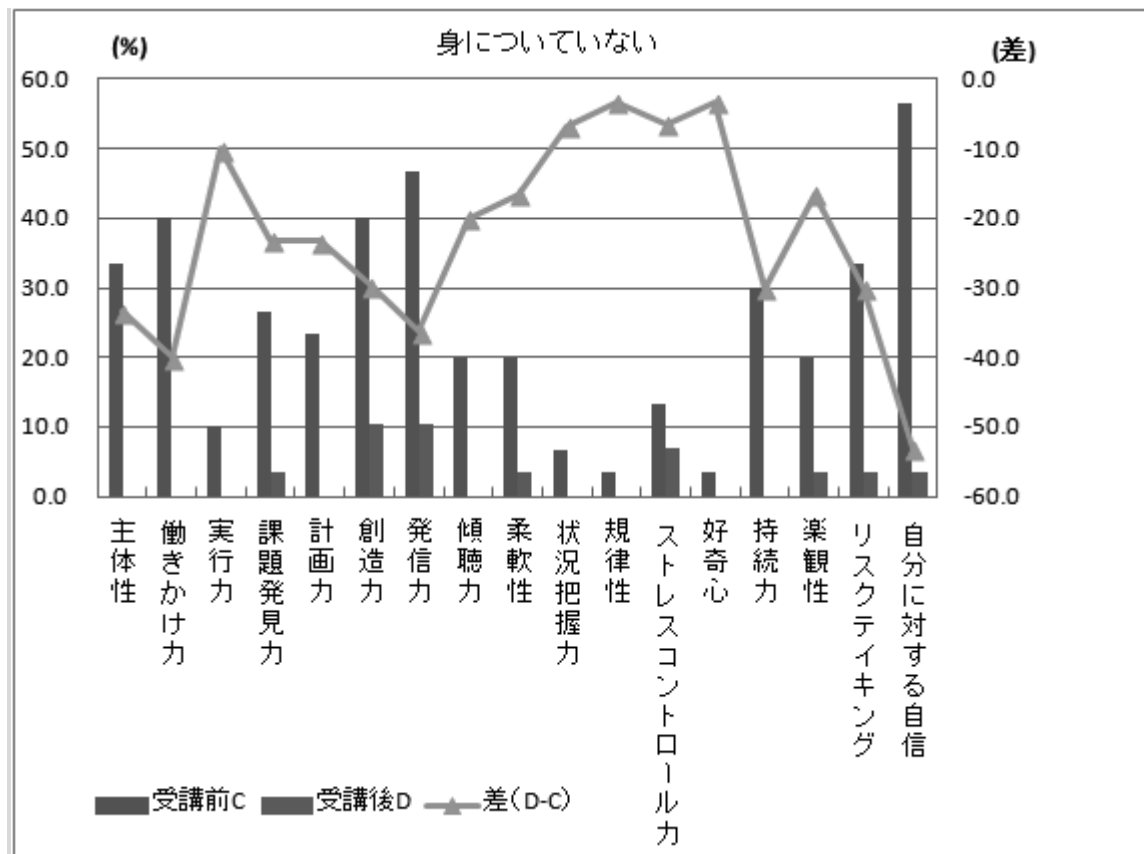
『PBL ぎふゼミ』アンケート集計

受講前Q：それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていると
 思いますか？

受講後Q：このプログラムを体験してどのような力や姿勢が身についたとおもいますか？

	身についているA-B			身につしていないC-D			加重平均値		
	受講前A	受講後B	差(B-A)	受講前C	受講後D	差(D-C)	受講前E	受講後F	差(F-E)
主体性	30.0	96.6	66.6	33.3	0.0	-33.3	-0.03	1.34	1.38
働きかけ力	16.7	86.2	69.5	40.0	0.0	-40.0	-0.27	1.14	1.40
実行力	53.3	86.2	32.9	10.0	0.0	-10.0	0.53	1.24	0.71
課題発見力	30.0	79.3	49.3	26.7	3.4	-23.2	0.07	0.93	0.86
計画力	23.3	72.4	49.1	23.3	0.0	-23.3	-0.07	0.90	0.96
創造力	23.3	58.6	35.3	40.0	10.3	-29.7	-0.23	0.62	0.85
発信力	13.3	72.4	59.1	46.7	10.3	-36.3	-0.33	0.97	1.30
傾聴力	56.7	93.1	36.4	20.0	0.0	-20.0	0.37	1.59	1.22
柔軟性	26.7	86.2	59.5	20.0	3.4	-16.6	0.13	1.17	1.04
状況把握力	63.3	72.4	9.1	6.7	0.0	-6.7	0.60	1.07	0.47
規律性	90.0	75.9	-14.1	3.3	0.0	-3.3	1.13	1.28	0.14
ストレスコントロール力	50.0	51.7	1.7	13.3	6.9	-6.4	0.43	0.72	0.29
好奇心	56.7	82.8	26.1	3.3	0.0	-3.3	0.67	1.03	0.37
持続力	36.7	89.7	53.0	30.0	0.0	-30.0	0.17	1.07	0.90
楽観性	33.3	58.6	25.3	20.0	3.4	-16.6	0.20	0.83	0.63
リスクテイキング	36.7	75.9	39.2	33.3	3.4	-29.9	0.10	0.90	0.80
自分に対する自信	16.7	72.4	55.7	56.7	3.4	-53.2	-0.50	0.83	1.33





(4) 企業現場教育

訪問企業 一覧 (平成27年度)

工学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	都市建設工学科	郡上総合庁舎、NEXCO中日本現場(三尾河橋(下部工)、軽丘トンネル南坑口)	61

経営情報学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	経営学科	食品サンプル創作館さんぶる工房、オオサキメディカル(株)	62

人文学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	コミュニケーション学科	NHK岐阜放送局	63
2	コミュニケーション学科	岐阜放送、岐阜新聞	64

応用生物学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	ツキオカフィルム製薬(株)、(株)サラダコスモ	65
2	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	アピ(株)池田工場、(株)ユニジェン池田工場	66
3	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	(株)岐阜セラツク製造所、キッコーマンソイフーズ(株)	67
4	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	天野エンザイム(株) <養老工場、岐阜研究所>	68

生命健康科学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	生命医科学科	エーザイ(株)川島工園、内藤記念くすり博物館	69
2	スポーツ保健医療学科	岐阜県スポーツ科学センター	70







その他

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	合同企業見学バスツアー (理系)	福寿工業(株)、新興機械(株)	71
2	合同企業見学バスツアー (文系)	(株)文溪堂、(株)セイノー情報サービス	72





2. 活動報告<学内プログラム>

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	キャリア形成支援プログラム (経営、人文、国際)	三甲(株)	73
2	キャリア形成支援プログラム (経営、人文、国際)	カネ美食品(株)多治見工場	74
3	キャリア形成支援プログラム (経営、人文、国際)	東京窯業(株)	75
4	キャリア形成支援プログラム (経営、人文、国際)	東濃信用金庫(とうしん学びの丘エール、本店)	76



企業現場教育 報告書

実施日	2015年 12月 8日 (火)		
訪問先企業名	郡上総合庁舎、NEXCO中日本現場 (三尾河橋(下部工)、軽岡トンネル南坑口)		
参加者	工学部 都市建設工学科 学部1～4年生, 修士1年生	参加人数	34名 (うち引率 2名)
引率者氏名	余川 弘至 (工学部 都市建設工学科 助教) 浅野 憲雄 (教育技術センター技術員)		
内容	<p>1. 地元技術者との懇談会(写真1参照)・・・地域活性化 実施内容：郡上建設業協会の青年会に所属する10名の技術者と、岐阜県内の建設業の現状、岐阜県の建設業で働くために必要となるスキル(資格)について説明を受けた。</p> <p>2. 施工現場での見学・・・リスク予防管理 ①三尾河橋(写真2) 実施内容：深礎杭工法、FCF工法、安全管理等の説明を受けた。 ②軽岡トンネル(写真3～4) 実施内容：NATM工法の概要及び使用機械等について説明を受けた。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真1 地元技術者との懇談会</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真2 三尾河橋での施工法説明</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真3 軽岡トンネルでの施工法説明</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真4 支保工、ロックボルトの説明</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真5 吹き付け機の説明</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真6 坑口前での全体写真</p> </div> </div>		



企業現場教育 報告書

<p>実施日</p>	<p>2015年 12月 8日 (火)</p>		
<p>訪問先企業名</p>	<p>食品サンプル創作館 さんぷる工房、オオサキメディカル(株)郡上工場</p>		
<p>参加者</p>	<p>経営情報学部 経営学科 3年生、4年生</p>	<p>参加人数</p>	<p>20名(うち引率 2名)</p>
<p>引率者氏名</p>	<p>山下 裕丈(経営情報学部 経営学科 教授) 丹羽 ゆかり(地域連携教育研究推進部)</p>		
<p>内 容</p>	<p>郡上八幡の産業と文化を学ぶため見学会を実施。</p> <p>1) 食品サンプル工房見学、サンプル作り体験 食品サンプルの製造工程及び製作体験を通し、地域の特産物としてレベルの高い技術が存続に必要なだと認識できた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>2) オオサキメディカル(株)郡上工場見学</p> <p>①工場内の衛生管理体制の説明 ②製造ラインの見学(ガーゼ製造、綿球製造、滅菌などの各工程) ③質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工場の人員、シフトについて ・ 品質管理、製造管理の体制について 等 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		



企業現場教育 報告書

実施日	2015年 12月 24日 (木)		
訪問先企業名	NHK岐阜放送局		
参加者	人文学部 コミュニケーション学科 1・2・3年生	参加人数	14名 (うち引率 2名)
引率者氏名	三摩 真己(人文学部 コミュニケーション学科 教授) 柳谷 啓子(人文学部 コミュニケーション学科 教授)		
内容	<p>▼ニュースができるまでを解説したビデオ視聴</p> <p>▼テレビスタジオ見学</p> <p>無人カメラ、キャスター席、キャスター席に設置された原稿支援端末(地震が起きた際、気象庁が発表する情報を自動的にニュース原稿化し、キャスター席に埋め込まれたモニターに表示する装置。キャスターは気象庁の発表とほぼ同時に地震情報を放送することができる)などキャスター席まわりの機器見学</p>  <p>▼テレビ副調整室見学</p> <p>放送を出すためのコントロールセンター。岐阜県内7か所に設置されたロボットカメラ、地震の際などにNHKの居室内を撮影し、直ちに放送に乗せるための機器などを見学。</p>  <p>▼質疑</p> <p>NHK岐阜放送局が地域放送局としてどのように岐阜県の視聴者と向き合い、地域の放送局として存在感を発揮しようとしているのか またNHKが27年度から始めた地域限定職員の岐阜放送局での採用見通説明を受けた。</p>		



企業現場教育 報告書

<p>実施日</p>	<p>2016年 2月 16日 (火)</p>		
<p>訪問先企業名</p>	<p>岐阜放送、岐阜新聞</p>		
<p>参加者</p>	<p>人文学部 コミュニケーション学科 1・2・3・4年生</p>	<p>参加人数</p>	<p>10名 (うち引率 2名)</p>
<p>引率者氏名</p>	<p>三摩 真己(人文学部 コミュニケーション学科 教授) 都築 耕生(人文学部 コミュニケーション学科 教授)</p>		
<p>内容</p>	<p>岐阜放送では制作スタジオ、副調整室、ニューススタジオ、副調整室、ラジオスタジオなどを見学した後、岐阜放送の採用方針等について説明を受けた。</p> <p>岐阜放送からは岐阜地域の放送局であり、テレビ制作、ラジオ制作が好きなことは勿論、岐阜県を好きだという人材を求めているという説明があった。</p> <p>また最近の若年層のテレビ離れ、ラジオ離れに対して若者向けの時間帯を設定して若い視聴者、聴取者をターゲットにした番組を集中的に編成していることなどを学んだ。</p> <p>岐阜新聞ではちょうど夕刊印刷の時間帯で、印刷現場を見学した後、報道部、整理部を見学。報道部では現役の記者に質問する機会が与えられ、不規則で休みが取れない中でも、読者により正確で詳細な情報を素早く届けるという「やりがい」を糧に日々駆け回っているという説明を受けた。</p> <p>最後に副局長の講話があり、より広い視野で物事を見る習慣をつけるよう助言を頂戴した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		



企業現場教育 報告書

実施日	2016年 2月 18日 (木)		
訪問先企業名	ツキオカフィルム製薬株式会社、株式会社サラダコスモ		
参加者	応用生物学部 FR、FS、FT 2・3年生	参加人数	30名 (うち引率 2名)
引率者氏名	鈴木 茂 (環境生物科学科 教授) 草野 由理 (食品栄養科学科 准教授)		
内容	<p>【ツキオカフィルム製薬株式会社】 医薬品を扱っているということもあり、衛生管理や害虫対策が徹底されていた。箔押し技術や食品や医療品に応用することで、これまでにはなかった斬新な製品の開発に取り組んでいる企業。私たちの身近にある商品もたくさんあり、粒状の薬をマイクロ単位のフィルム状にするという技術は、高齢者や寝たきりの方、小さな子供でも服用しやすいという利点があり、既存の製品以上に汎用性が富んでおり、これからの生活を豊かにする一端を担う企業という印象を受けた。</p> <p>【株式会社サラダコスモ】 ホコリがつきにくい制服、工場に入るまでに洗浄などで10分手洗い消毒をしないと扉が開かないシステムで徹底されたリスク予防管理がなされていた。海外とのつながりが深く、色々な国と関わり、野菜生産を行っている。もやしや、かいわれ大根、豆苗などのスプラウト野菜の製造に力をいれていた。水しか使わない有機栽培を行っているため、純度の高い水を使用するというこだわりがあった。また、地域にも目を向け、日本では聞き慣れないが、ヨーロッパではとてもポピュラーな野菜「チコリ」の生産をしている。「チコリ」の生産には60歳以上の高齢者を採用し、休耕地の有効活用、地産池消など地域活性化にも大いに貢献している。</p> <p>学生のレポートからは、リスク予防管理、地域活性化の大切さを改めて感じたという内容が多く、とても良い機会であったと思われる。</p>		
			
	ツキオカフィルム製薬株式会社		株式会社サラダコスモ



企業現場教育 報告書

<p>実施日</p>	<p>2016年 2月 19日 (金)</p>		
<p>訪問先企業名</p>	<p>アピ株式会社 池田工場、株式会社ユニジェン 池田工場</p>		
<p>参加者</p>	<p>応用生物学部 FR、FS、FT 2・3年生</p>	<p>参加人数</p>	<p>27名 (うち引率 3名)</p>
<p>引率者氏名</p>	<p>前野 善孝 (応用生物学部 食品栄養科学科 教授) 愛知 真木子 (応用生物学部 応用生物化学科 講師) 梅田 充 (キャリア支援課)</p>		
<p>内容</p>	<p>【アピ株式会社 池田工場】 始めにご挨拶と池田工場で扱う製造製品についての説明を頂き、見学の注意事項を受け、全員防塵服を着用し、2グループに分かれて工場内の見学を行った。 池田工場では、健康食品の様々な剤形加工(ソフトカプセル、ハードカプセル、飲料)の設備を有し、優れた品質管理のもとでの生産体制が整っており、そのすべてを見学させて頂いた。学生は、その説明を受けながら、初めて見る生産現場の管理体制に興味を持ち、積極的に質問をしていた。 一通り見学を終わり控室に戻り、ご厚意によりアピ会社本来の製品であるドリンクを頂きながらさらに質疑応答を受けて頂きました。</p> <p>【株式会社ユニジェン 池田工場】 スライドを用いて現在行っている季節性インフルエンザワクチンの特殊製造法について分かりやすく説明を頂いた。引き続き、見学する工場内DVDを視聴し、工場内へ立ち入るための消毒方法の講習を受け、3グループに分かれて見学をした。引率して頂いた社員は、応用生物学部OGの方2名も含まれていた。感無量であった。工場のエネルギーセンター一部門から遺伝子操作部門、細胞培養・播種大量培養部門・タンパク質採取精製部門などすべてのラインの説明を受けた。見学終了後、控室に於いて質疑応答の時間を頂き、工場内の害虫のモニタリング、管理者の資格、新たなワクチン製造に関する研究など多く積極的に質問が出された。先に見学したアピ会社との関連も伺うこともでき、有意義な工場見学であった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>アピ株式会社 池田工場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>株式会社ユニジェン 池田工場</p> </div> </div>		



企業現場教育 報告書

実施日	2016年 2月 24日 (水)		
訪問先企業名	株式会社岐阜セラック製造所・キッコーマンソイフーズ株式会社		
参加者	応用生物学部 3年生	参加人数	24名 (うち引率 2名)
引率者氏名	津田 孝範(応用生物学部 食品栄養科学科 教授) 村上 哲生(応用生物学部 環境生物科学科 教授)		
内容	<p>【岐阜セラック製造所】 セラック等の天然物からの有用物質抽出技術を基盤とした企業であったが、現在様々な物質の合成も手掛けている。担当者からの企業説明では、技術系が主導する企業であると判断した。見学部所は、抽出実験室、製品分析室、小規模実験プラントであった。ガスクロ、液クロなど機器による分析業務が主であり、本学部の学生にも馴染み易い業種であると感じた。有機溶媒等の危険物を扱う業務であるため、発火等の安全管理や社員の健康管理にもある程度の配慮がされている。本学の卒業生も複数勤務している。</p> <p>【キッコーマンソイフーズ】 食品メーカー「紀文」系列の豆乳製造工場である。見学場所は、一般見学者にも公開されている豆乳製造工程のみであったが、製造だけではなく、新しい製品開発も担当しているとのことである。食品系の企業に就職する予定の学生は、候補として挙げて良いかもしれない。従業員総数 140 名弱の小規模な事業所であるが、若いスタッフが多く、学生も気軽に質問を発することができたようだ。2008 年の本学卒業生も勤務しており、業務内容等について、話を聞くことができた。</p>		
			
	株式会社岐阜セラック製造所		キッコーマンソイフーズ株式会社

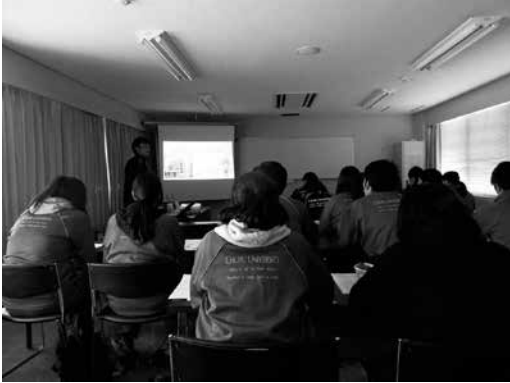

企業現場教育 報告書

実施日	2016年 2月 24日 (水)		
訪問先企業名	天野エンザイム株式会社 (養老工場・岐阜研究所)		
参加者	応用生物学部 FR、FS、FT 2年生・3年生	参加人数	24名 (うち引率 2名)
引率者氏名	町田 千代子 (応用生物学部 応用生物化学科 教授) 呂 鋭 (応用生物学部 食品栄養科学科 助教)		
内容	<p>【天野エンザイム養老工場】 会社概要、養老工場の紹介、質問等の後、工場内を見学。 養老工場では、バクテリアやカビ等を培養して酵素を取り出しているところを見学した。 大量に培養しても取れる酵素はとても少ないということ、また食品添加物、酵素製剤の製造工場では酵素の利用法や、培養の段階など多くの知識を得られた。</p> <p>【天野エンザイム岐阜研究所】 会議室にて岐阜研究所の紹介、酵素についての説明の後、研究所を見学。 研究のための資料として書籍が数多くあり、研究している場所がひと目で分かるような建物の造りになっており、研究しやすい設備であると感じた。 菌株はアンプルで20年も保存が可能ということ、京都に菌塚を作っているという説明を受け、学生はとても興味深く見学していた。</p> <p>養老工場、岐阜研究所共に、大学では見られないもの、あっても数が少ないものがたくさんあり、質疑応答も途切れることなく続き、とても貴重な経験になったと思われる。</p>		
			
	天野エンザイム養老工場		天野エンザイム岐阜研究所



企業現場教育 報告書

実施日	2015年 12月 8日(火)		
訪問先 企業名	エーザイ株式会社 川島工園/内藤記念くすり博物館		
参加者	生命健康科学部 生命医科学科 3年生	参加人数	19名(うち引率 2名)
引率者氏名	古川 圭子(生命健康科学部 生命医科学科 教授) 田島 織絵(生命健康科学部 作業療法学科 准教授)		
内容	<p>・工場見学(川島工園)</p> <p>医薬品(医療用)生産ラインを見学した。原料の計量、混合、造粒の過程や錠剤の薬品に対する識別コードの印刷行程や印字後のチェック過程を見学し、衛生管理や品質管理について学んだ。</p> <p>製品の運搬や保管における自動化された物流システムを見学した。</p> <p>敷地内の庭園を見学し、工場内排水の浄化システムや地域環境に対する企業の配慮について学んだ。</p> <p>・内藤記念くすり博物館見学</p> <p>博物館内を見学し、学芸員による解説を受けた。</p> <p>漢方や生薬の歴史、薬の歴史を学んだ。</p> <p>解体新書の展示や抗生物質、麻酔薬の歴史的な展示を見学し、これらの功績のあった人物について学んだ。</p> <p>アルツハイマー病の特別展示を見学した。</p> <p><質疑応答></p> <p>見学の最中に参加者が積極的に質問し、丁寧な回答が得られた。</p> <p>工場の衛生管理レベルについて</p> <p>輸送ロボットについて</p>		
			
	川島工園		内藤記念くすり博物館




企業現場教育 報告書

実施日	2016年 3月 2日 (水)		
訪問先企業名	岐阜県スポーツ科学センター		
参加者	生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 1・2・3年生	参加人数	26名 (うち引率 2名)
引率者氏名	西垣 景太 (生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 講師) 浦井 久子 (生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 助手)		
内容	<p>岐阜県スポーツ科学センターは、東京オリンピックに向けたアスリート育成ならびにジュニア発掘・育成を主な事業内容として取り組んでいる組織である。施設内外で選手のサポートを行っているスタッフが職員として勤務している。</p> <p>今回は、施設内の実施内容等の紹介として、施設概要についての説明、筋力測定器の説明と体験、動作解析の説明と体験を行って頂いた。</p> <p>学生達は2グループに分かれてそれぞれの体験を行った。質疑応答では、30分以上の時間、質疑が途切れることなく続き積極的な姿勢が見られた。</p> <p>学生のレポートからは、学内にない設備の説明を受けられたことへの喜びや、今後の更なる専門の学びの必要性について感じている学生が多かったことが分かった。また、地域活性のために選ばれたチームや選手をサポートするシステムについて話を聴く中で、専門のサポートを受けられる体制は選手にとってケガなくスポーツ活動を継続するために良いシステムであると感じるといった意見も挙げられた。現場を知ることで、今後の学びへの充実にもつながるのは良い機会であったと思われる。</p>		
	 		





企業現場教育 報告書

実施日	2016年 2月 22日 (月)		
訪問先企業名	合同企業見学バスツアー (理系) 福寿工業株式会社、新興機械株式会社		
参加者	工学部・応用生物学部生	参加人数	9名 (うち引率 1名)
引率者氏名	加藤 透 (キャリア支援課)		
内容	<p>1. 福寿工業株式会社 (写真1) 10時00分～12時00分</p> <p>実施内容: 始めに会社概要、沿革、業内容等の説明があり、引き続き工場見学を実施した。見学終了後には社長自らによる質疑応答が行われた。</p> <p>2. 新興機械株式会社 (写真2) 13時00分～15時00分</p> <p>実施内容: 始めに会社概要、沿革、業務内容等の説明があり、引き続き工場見学を実施した。見学終了後には設計部員による業務に関する説明と引き続き質疑応答が行われた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>(写真1) 福寿工業株式会社にて</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(写真2) 新興機械株式会社にて</p> </div> </div>		





企業現場教育 報告書

<p>実施日</p>	<p>2016年 2月 23日 (火)</p>		
<p>訪問先企業名</p>	<p>合同企業見学バスツアー (文系) 株式会社文溪堂、株式会社セイノー情報サービス</p>		
<p>参加者</p>	<p>経営情報学部、人文学部、国際関係学部、 応用生物学部 2・3年生</p>	<p>参加人数</p>	<p>10名 (うち引率 1名)</p>
<p>引率者氏名</p>	<p>丹羽 ゆかり (地域連携教育研究推進部)</p>		
<p>内容</p>	<p>COC+合同プログラムの一環として22日、23日の2日間、岐阜県の優良企業での見学会が実施された。</p> <p>23日は中部大学9人、岐阜大学11人、中部学院大学1人、日本福祉大学8人の文系学生が合同で、株式会社文溪堂、株式会社セイノー情報サービスを訪問した。</p> <p>参加した学生は他大学の学生と一緒に梱包・配送等の工場内を見学したり、総務担当者から会社の概要説明を受けた。また、株式会社セイノー情報サービスでは、先輩若手社員とグループに分かれ、文系学部でも就職できるか、など直接質問する場があり大変よい機会となった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>(株)文溪堂</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(株)セイノー情報サービス</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>		



企業現場教育 報告書

実施日	2016年 2月 18日(木)		
訪問先企業名	キャリア形成支援プログラム 三甲株式会社		
参加者	経営情報学部, 国際関係学部, 人文学部2年生	参加人数	28名(うち引率 4名)
引率者氏名	山口 直樹(経営情報学部 経営学科 主任) 和田 知久(国際関係学部 中国語中国関係学科 講師) 他職員2名		
内容	<p>1. 業界・企業の概要説明(写真1参照)・・・地域活性化 実施内容: 物流機器メーカーの主な事業と、三甲(株)の業界と地域における役割等の説明を受けた。</p> <p>2. 工場見学(同社意向により写真はなし)・・・リスク予防管理 実施内容: 本社工場の見学過程で各機器の誤作動防止や事故防止のための取組みに関する説明を受けた。</p> <p>3. ショールーム見学・質疑応答(写真2~3参照) ・・・地域活性化、学生に働き方をイメージさせる 実施内容: 同社商材の地域発展への関わり方に関する説明を受けた その後、質疑応答時間を設け、見学会を終了した。</p>		
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1 概要説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2 商材説明</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真3 質疑応答</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真4 全体写真</p> </div> </div>		





企業現場教育 報告書

<p>実施日</p>	<p>2016年 2月 23日(火)</p>		
<p>訪問先企業名</p>	<p>キャリア形成支援プログラム カネ美食品株式会社 多治見工場</p>		
<p>参加者</p>	<p>経営情報学部、国際関係学部、 人文学部2年生</p>	<p>参加人数</p>	<p>15名(うち引率 2名)</p>
<p>引率者氏名</p>	<p>西田 豊昭(経営情報学部 経営学科 准教授) 田中 順(キャリア支援課)</p>		
<p>内容</p>	<p>1. 業界・企業の概要説明(写真1参照)・・・地域活性化 実施内容:中食(惣菜)市場の現状とカネ美食品(株)の事業内容、地域における役割等の説明を受けた。</p> <p>2. 工場見学(写真2参照)・・・リスク予防管理 実施内容:本社工場の見学過程で食品の品質や衛生面などのリスク管理、各機器の衛生管理・事故防止のための取組みについての説明を受けた。</p> <p>3. OB/OGによる質疑応答(写真4参照) ……地域活性化、学生に働き方をイメージさせる 実施内容:本学卒業生と副工場長より、同社食品の地域発展への関わり方に関する説明や働くことへの思いや業務内容などを説明いただいた。 その後、質疑応答時間を設け、見学会を終了した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1 概要説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2 工場見学</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真3 OB/OG 質疑応答</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真4 全体写真</p> </div> </div>		

企業現場教育 報告書

実施日	2016年 2月 25日(木)		
訪問先企業名	キャリア形成支援プログラム 東京窯業株式会社		
参加者	経営情報学部、国際関係学部、 人文学部2年生	参加人数	13名(うち引率 2名)
引率者氏名	澤村 隆秀(経営情報学部 経営会計学科 教授) 田中 順(キャリア支援課)		
内容	<p>1. 業界・企業の概要説明(写真1参照)・・・地域活性化 実施内容:耐火物製品、セラミックスなどの製品の紹介を含む同社の事業内容、地域における役割等の説明を受けた。</p> <p>2. 工場見学(企業意向により写真撮影不可)・・・リスク予防管理 実施内容:工場の見学過程で製造方法の説明に加え、各機器の安全管理・メンテナンスの重要性、事故防止のための取組みについての説明を受けた。</p> <p>3. 質疑応答(写真2参照)・・・地域活性化、学生に働き方をイメージさせる 実施内容:同社の地域への関わり方や働くことへの思い、業務内容などを説明いただいた。 その後、質疑応答時間を設け、見学会を終了した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1 概要説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2 質疑応答風景</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>写真3 会社入口での全体写真</p> </div>		

企業現場教育 報告書

<p>実施日</p>	<p>2016年 2月 25日(木)</p>		
<p>訪問先企業名</p>	<p>キャリア形成支援プログラム 東濃信用金庫(とうしん学びの丘 エール、本店)</p>		
<p>参加者</p>	<p>経営情報学部、国際関係学部、 人文学部2年生</p>	<p>参加人数</p>	<p>57名(うち引率 4名)</p>
<p>引率者氏名</p>	<p>澤村 隆秀(経営情報学部 経営会計学科 教授) 高比良 美詠子(人文学部心理学科) 他、職員2名</p>		
<p>内容</p>	<p>1. 業界・企業の概要説明(写真1参照)・・・地域活性化 実施内容: 地域社会・地域経済の持続的発展のために、信用金庫がどのような役割を果たしているのか、東濃信用金庫の事業内容と関連づけを説明いただいた。</p> <p>2. 本店見学(写真2・3参照)・・・リスク予防管理、働き方をイメージさせる 実施内容: 本店各部署の見学過程でお金や個人情報の取扱いに関する話や業務内容、仕事のやりがいや大変さなどの説明を受けた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1 概要説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2 本店見学</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真3 本店見学</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>集合写真</p> </div> </div>		

訪問企業 一覧 (平成28年度)

工学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	建築学科	世界淡水魚園水族館 アクア・トぎふ	79
2	応用化学科	(株)岐阜セラツク製造所	80
3	機械工学科	(株)TYK 多治見本部・製造所	81
4	都市建設工学科	国土交通省 中部地方整備局 新丸山ダム工事現場	82
5	全学部	ムライ機器(株)、(株)NSP SS	83
6	全学部	ダイオーエンジニアリング(株)、 三菱電機(株)名古屋製造所可児工場	84

経営情報学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	経営総合学科	ヨツハシ(株)	85
2	経営情報学科	太平洋工業(株)	86

国際関係学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	国際学科	(株)馬籠館	87

人文学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	コミュニケーション学科	岐阜放送、岐阜新聞	88

応用生物学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	(株)ミツカンサンミ 美濃加茂工場、 ツキオカフィルム製薬(株)	89
2	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	キッコーマンソイフーズ(株)岐阜工場、 エーザイ(株)川島工園	90
3	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	(株)サラダコスモ	91
4	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	エイキット(株)内原第三工場	92
5	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	天野エンザイム(株)岐阜研究所	93
6	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	アピ(株)池田工場	94

2. 活動報告<学内プログラム>



その他

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	キャリア形成支援プログラム (経営、人文、国際、生命)	東濃信用金庫(とうしん学びの丘エール、本店)	95

企業現場教育 報告書

実施日	2016年 8月 4日 (火)		
訪問先企業名	世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ		
参加者	工学部 建築学科1・2・3年生	参加人数	24名 (うち引率 2名)
引率者氏名	山羽 基 (工学部 建築学科 教授) 横江 彩 (工学部 建築学科 助教)		
内容	<p>世界最大級の淡水魚専門の水族館「アクア・トトぎふ」にて、学芸員の案内で、バックヤードを見学した。長良川の源流から河口の生態系を再現する水族館における、管理運営の方法の説明を受けた。</p> <p>上流に生息するアマゴなどの溪流魚では水温を低温に、河口での鯉などはそれより温かい温度に水温を冷凍機などにて調整する仕組みがある。両生類は生きた昆虫を餌とするためその飼育室を設けている。水質を維持するための砂を用いたろ過装置を見学し、水流を逆転してメンテナンスする方法について説明を受けた。</p> <p>水源は地下水を利用しているため、上水料金はかからないが下水料金を削減するため、給水のバランスを考えることが維持管理費の節約になるとのこと。</p> <p>バックヤードツアーの後、館内を閲覧した。岐阜県の自然環境とりわけ河川環境を再現した展示を見ることで、地域の特徴を活かした施設の意義を理解した。夏休み中であり、多くの子供連れの来館者があり、地域への啓発活動の場となっていることを認識し、水族館という企業活動と地域の関連を体験できたと考える。</p>		
	 		

企業現場教育 報告書

実施日	2016年 9月 5日 (月)		
訪問先企業名	株式会社岐阜セラック製造所		
参加者	工学部 応用化学科 2・3・4年生	参加人数	29名 (うち引率 1名)
引率者氏名	藪内 一博 (工学部 応用化学科 准教授)		
内容	<p>11時50分に大学集合、12時に出発し、現地に13時15分過ぎ到着。</p> <p>14時30分より約1時間、会社概要と沿革、ならびに天然物であるセラックから得られる製品や、その技術から派生した機能性樹脂や分散剤などの製品について説明を受けた。</p> <p>会社名からセラックを利用した製品がほとんどと誤解されがちであるが、現在はセラック(シェア50%超)よりも、石油化学製品である機能性樹脂や構造制御高分子などを利用した製品がメインであり、消費者には直接名前が出てくる機会は少ないが、優れた技術力を持っている。</p> <p>14時35分から3班に分かれ、約50分間かけて製品評価装置や分析機器、合成プロセスの実験室およびプラントを見学した。その際、各部署で現場技術者からの説明を受けた。その後、最初に説明を受けた部屋に戻り、学生からの質疑を受けた、終了。</p> <p>15時35分、現地出発。神領駅経由で16時40分頃大学帰着。</p>		
	 		

企業現場教育 報告書

実施日	2016年 9月 16日 (金)		
訪問先企業名	株式会社 TYK 多治見本部・製造所		
参加者	工学部 機械工学科 3年生 大学院 機械工学専攻1年生	参加人数	16名 (うち引率 1名)
引率者氏名	平沢 太郎 (工学部 機械工学科 准教授)		
内容	<p>TYK多治見本部・製造所にて、耐熱煉瓦の大型のプレス成形機を見学した。また、研究所では、製鉄所溶鉱炉内で使用される普段見ることのできない耐熱ノズルなど、高度な技術により製作された部品を見学することができた。</p> <p>最初に会議室にて、TYKの会社概要をご説明頂いた。</p> <p>その後の見学は、先に製造所を見学する班と、先に研究所を見学する班の8名ずつの2班に分かれ、少人数で行われた。耐熱煉瓦の大型のプレス成形機は完全に無人で稼働しており、作業員の負傷などの発生を防ぐ、リスク予防管理が行われている現場をじっくりと見学することができた。</p> <p>自動で機械が不良品を取り除く装置の説明も受けた。</p> <p>2班に分かれ8名ずつであったことからか、学生も質問し易かったようで、予想以上に多くの質問が出て、見学時間を大幅に超過し、予定の1時間遅れで帰途についた。</p>		


企業現場教育 報告書

<p>実施日</p>	<p>2016年12月 8日 (木)</p>		
<p>訪問先企業名</p>	<p>国土交通省 中部地方整備局 新丸山ダム工事事務所</p>		
<p>参加者</p>	<p>工学部 都市建設工学科 B2, B3, B4, M2 年生</p>	<p>参加人数</p>	<p>40名 (うち引率 3名)</p>
<p>引率者氏名</p>	<p>余川 弘至 (工学部 都市建設工学科 助教)</p>		
<p>内容</p>	<p>COC+事業の「地域活性化」および「リスク予防管理」をキーワードに、企業現場教育を実施した。新丸山ダムの建設目的および機能を学び、ダムの建設のための架け替え道路の建設現場を見学した。建設現場では、建設工程や設計法について学ぶだけでなく、施工業者の勤務状況など就職活動に関わる質疑応答なども実施した。以下に企業現場教育の状況を示す。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center; margin: 10px;">  <p>写真1 国交省による新丸山ダムの説明</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px;">  <p>写真2 ダム建設予定地の視察</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px;">  <p>写真3 丸山ダムの視察</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px;">  <p>写真4 架け替え道路の現場説明</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px;">  <p>写真5 安全帯による落下防止</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px;">  <p>写真6 事務所前での全体写真</p> </div> </div>		



企業現場教育 報告書

実施日	2016年 12月 8日 (木)		
訪問先企業名	ムライ機器株式会社、株式会社 NSP SS		
参加者	工学部 電気システム工学科 2・3年生	参加人数	21名(うち引率 4名)
引率者氏名	廣塚 功 (工学部 電気システム工学科 教授) 角 紳一 (工学部 電気システム工学科 教授) 中村 雅憲 (工学部 電気システム工学科 教授) 松本 純 (工学部 電気システム工学科 助教)		
内容	<p>ムライ機器株式会社 において</p> <p>主として、三菱電機に収めている小形誘導モータの製造・販売をしている会社である。約 20 分間の会社説明の後に工場見学を行った。環境マネジメントシステム KES を導入し、会社全体の省エネルギー・高効率化を図っている。</p> <p>また、工場内のリスク管理に関する説明もあった。</p> <p>株式会社 NSP SS において</p> <p>主として、住宅用パネルの製造に関する工場見学を行った。約 20 分間の会社説後、自社開発ラインでの住宅用パネルの製造行程を見学した。</p> <p>工場はかなり大きい、自動化が進んでおり、人影はまばらなのが印象的であった。</p> <p>中津川市の活性化に様々な協力をしている地域密着型企业である。</p> <p>いずれの企業も地域密着型であり、リスク管理がしっかりとなされていたことが、学生に伝わり、見学目的を達成できたものと考えている。また、中部大学からの採用も引き続き考えているとのことであった。</p>		
			
	ムライ 機器株式会社		株式会社 NSP SS



企業現場教育 報告書

実施日	2017年 2月 9日 (木)		
訪問先企業名	ダイオーエンジニアリング株式会社、三菱電機株式会社 名古屋製作所 可児工場		
参加者	電気システム工学科、情報工学科 食品栄養科学科 2・3・4年生	参加人数	26名 (うち引率 1名)
引率者氏名	廣塚 功 (工学部 電気システム工学科 教授)		
内容	<p><ダイオーエンジニアリング(株)></p> <p>会社の概要説明、ダイオー製紙(株)の製造現場見学、製造機器の保全などの説明 概要説明では、ダイオー製紙の生産設備メンテナンスを主とした業務であり、設備管理でのポイントなどが説明された。製造現場では、紙の原料から巨大な紙のロールの製造および巨大な紙のロールから高速でトイレトペーパーおよびボックスティッシュの製造ラインを見学した。騒音が著しく、従業員同士の直接会話が難しいため、インカムで話をしているなどの対策が取られていた。</p> <p><三菱電機(株)名古屋製作所可児工場></p> <p>工場の概要説明、工場見学、サーキットブレーカ製造行程での工夫を中心に説明を受ける。 概要説明では、可児工場での生産品と名古屋製作所との関係などの説明があった。 現場見学では、人件費削減と品質向上を目指して、適度のロボットが導入されていることが特徴的であった。また、生産工程見直しおよびこれに伴う生産設備の改良が日々行われている点も詳しく説明を受けた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>ダイオーエンジニアリング(株)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>三菱電機(株)名古屋製作所可児工場</p> </div> </div>		



企業現場教育 報告書

実施日	2016年 9月 12日 (月)		
訪問先企業名	ヨツハシ株式会社		
参加者	経営情報学部 経営総合学科 1年生	参加人数	28名 (うち引率 3名)
引率者氏名	澤村 隆秀 (経営情報学部 経営総合学科 教授) 山口 直樹 (経営情報学部 経営総合学科 教授) 趙 偉 (経営情報学部 経営総合学科 教授)		
内容	<p>学生 25 名、教員 3 名で訪問した。</p> <p>到着後、3 グループに別れ各部署を見学させていただき、各部署で説明が行われた。その後は社長から会社のことや、ご自身の人生経験など多岐にわたる大変有意義なお話をいただき、最後に質疑応答が行われた。</p> <p>今回の企業現場教育の実施対象が 1 年生ということもあって、うまくいくか心配であったが概ね順調に終了した。最後の質疑応答は 1 件のみであったが、大変盛り上がった内容となった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		



企業現場教育 報告書

実施日	2016年 9月 14日 (水)		
訪問先企業名	太平洋工業株式会社		
参加者	経営情報学部 経営情報学科3年生 経営学科2年生	参加 人数	14名 (うち引率 3名)
引率者氏名	小川 裕克 (経営情報学部 経営情報学科 教授) 早野 利人 (経営情報学部 経営情報学科 教授) 中津 道憲 (研究推進機構 教授)		
内容	<p>自動車部品メーカーの太平洋工業・東大垣工場を訪問し、以下のプログラムに沿って企業及び工場の概要の説明を受け、生産現場の見学及び質疑応答を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会社概要の説明 (DVDによる紹介及び口頭による補足説明) と質疑応答 社是、工場、従業員数、製造している商品及びそのシェア。環境保全活動・地域社会と密接な連携による社会貢献、等 2. 工場見学 プレス機器等の稼働、生産性向上のための地道な活動、安全性確保のための対応、等 3. 工場見学の結果を受けての質疑応答 4. ITの活用の現状についての説明と質疑応答 サプライチェーンマネジメント、CAE (コンピュータによる設計等)、BCP (事業継続計画) 等 <p>学生たちは、稼働している生産ライン (3つの工場) を見ることにより、物づくりの実際を観察することができた。中でも</p> <ol style="list-style-type: none"> ①メーカーとして安全、品質、生産性の順に重視している姿勢 ②環境保全活動・地域社会と密接な連携による社会貢献 ③自動車タイヤのバルブの国内シェア 100%、海外シェア 20%であること ④3000t ものプレス機が大きな音を立てて稼働している現場 ⑤在庫をほとんど持たないこと等に感銘を受けていたようである。 		
	 		



企業現場教育 報告書

実施日	2017年 2月 13日 (月)		
訪問先企業名	株式会社 馬籠館		
参加者	国際関係学部・人文学部 1・2・3年生	参加人数	22名 (うち引率 2名)
引率者氏名	桃井 治郎 (国際関係学部 国際学科 准教授) 澁谷 鎮明 (国際関係学部 国際学科 教授)		
内 容	<p>今回の現場教育には、国際関係学部(19人)、人文学部(1人)の学生が参加した。参加募集は秋学期授業終了後であったが、観光業界に関心を持つ学生を中心に積極的な参加が見られた。</p> <p>また、馬籠に関する事前学習資料をメールで送り、当日の現場教育のための準備を促した。</p> <p>当日は、10時10分頃に中部大学を出発し、馬籠宿に11時30頃に到着した。駐車場では馬籠館のスタッフの方から出迎えと説明を受け、その後、事前学習に従いながら、馬籠宿の観光資源や観光案内の状況を確認した。</p> <p>昼食を取った後、午後1時から今回の訪問企業である馬籠館において、馬籠館スタッフで外国人観光案内所の責任者から、外国人観光客を対象とする観光案内の内容や工夫点、問題点などの話を伺った。その後の質疑応答では、学生からさまざまな質問が出され、活気に満ちた意見交換となった。その後、40分程度、自由時間とし、午後3時に馬籠宿を出発、午後4時20分に神領駅、午後4時40分に大学に到着して解散した。</p>		
	 		



企業現場教育 報告書

実施日	2016年 9月 8日 (金)		
訪問先企業名	岐阜放送、岐阜新聞		
参加者	人文学部 コミュニケーション学科 1・2・3年生(工学部、日本語日本 文化学科の学生がそれぞれ1人)	参加人数	10名 (うち引率 9名)
引率者氏名	三摩 真己 (人文学部 コミュニケーション学科 教授)		
内 容	<p>岐阜放送では会社の紹介ビデオを視聴した後、制作スタジオ、副調整室、ニューススタジオ、副調整室、ラジオスタジオなどを見学した。</p> <p>岐阜放送では地域に密着した放送局として地域の問題を積極的に番組化し、自社制作率が30%ほどになっているという説明を受けた。</p> <p>岐阜新聞ではちょうど夕刊印刷の時間帯で、印刷現場を見学した。</p> <p>印刷されたばかりの夕刊を頂戴したが、そこには締め切り寸前の時間帯に岐阜県西部で大規模な停電が起きたという記事が掲載されていた。</p> <p>新聞社側からはぎりぎりまで新しい情報を提供しようとするのがメディアとしての責務との説明があった。この後、報道部、整理部を見学。報道部では現役の記者に質問する機会が与えられ、不規則で休みが取れない中でも、読者により正確で詳細な情報を素早く届けるという「やりがい」を糧に日々駆け回っているという説明を受けた。原主任からは地域のメディアとして地域を見つめていく事の重要性について説明があり、ぜひ就職の際には新聞社を候補の一つに入れてほしいと勧誘を受けた。</p>		
			
	岐阜放送		岐阜新聞

企業現場教育 報告書

実施日	2016年 9月 15日 (木)		
訪問先企業名	株式会社ミツカンサンミ 美濃加茂工場、 ツキオカフィルム製薬株式会社		
参加者	応用生物学部 2・3年生	参加人数	29名 (うち引率 1名)
引率者氏名	塚本 義則 (応用生物学部 応用生物化学科 教授)		
内容	<p>(株)ミツカンサンミ美濃加茂工場</p> <p>最初に全員を対象にミツカンサンミ美濃加茂工場の概要説明をしていただいた後、A～Dの4班に分かれて、ドライ工場(レトルトパウチ鍋調味料)に2班、チルド工場(納豆:見学コースの窓越し)に2班で工場見学をした後、それぞれ入れ替わって2つの工場を見学した。見学後、質疑応答の場を持ったが、非常に数多くの学生が積極的に質問ができた。</p> <p>ツキオカフィルム製薬(株)</p> <p>2班に分かれてそれぞれ最初に会社概要の説明を受けた後、食品用金箔製造工程と医薬用フィルム製造工場をそれぞれ見学コースから窓越しに見学できた。見学後、質疑応答の場を持ったが、非常に数多くの学生が積極的に質問ができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>(株)ミツカンサンミ美濃加茂工場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ツキオカフィルム製薬(株)</p> </div> </div>		

企業現場教育 報告書

実施日	2016年 9月 16日 (金)		
訪問先企業名	キッコーマンソイフーズ株式会社 岐阜工場、 エーザイ株式会社 川島工園		
参加者	応用生物学部 学部生 27名	参加人数	28名 (うち引率 1名)
引率者氏名	墨 泰孝 (応用生物学部 応用生物化学科 助教)		
内 容	<p>午前中はキッコーマンソイフーズ株式会社の岐阜工場を見学した。岐阜工場は豆乳、及び豆乳加工飲料を生産しており、その工程について見学した後、応用生物学部 0B の片野様から豆乳飲料を生産する上でのリスク管理に関する講演をしていただいた。講演では、基本的な実験操作を例に、リスクを減らすための工夫について説明していただいた後、実際の向上におけるリスク管理を詳細に解説していただいた。特に、食品生産に関する国際規格と工場独自の管理方法に関する内容は、学生がリスク管理を考える上で大変参考になったと思われる。</p> <p>午後は、エーザイ株式会社の川島工園工場を見学した。一般向けの工場ツアーであったが、普段なかなか目にすることができない医薬品の製造現場を見学することができ、学生は熱心に説明を聞いていた。また、薬品の製造には食品以上に厳格な品質管理が必要になること、工場の排水処理に関することなど、リスク予防に関する解説も多くあり、参考になったと思われる。</p>		
			
	キッコーマンソイフーズ株式会社 岐阜工場		エーザイ株式会社 川島工園工場

企業現場教育 報告書

実施日	2017年 2月 17日 (金)		
訪問先企業名	株式会社サラダコスモ		
参加者	応用生物学部 全学科 2・3 年生	参加人数	25名 (うち引率 2名)
引率者氏名	吉村 和也 (応用生物学部 食品栄養科学科 准教授) 中川 大 (応用生物学部 応用生物化学科 講師)		
内容	<p>ちこり村の施設内にある会議室にて、ちこり村支配人から株式会社サラダコスモの沿革および現社長中田智洋氏の理念についての紹介を聞き、その後、ちこり村職員による案内の下、施設内にある見学施設にて「ちこり」とその生産方法、商品開発の過程を見学した。</p> <p>約 1 時間ちこり村に滞在した後は、株式会社サラダコスモが所有する中津川サラダ農園に移動し、2グループに分かれて、現場職員による案内の下、スプラウト類の栽培現場と出荷までの過程を見学した。</p>		
			
			



企業現場教育 報告書

実施日	2017年 2月 20日 (月)		
訪問先企業名	エイキット株式会社 内原第三工場		
参加者	応用生物学部 全学科 2・3 年生 工学部 応用化学科、生命健康科 学部 生命医科学科 3 年生	参加人数	20名 (うち引率 2名)
引率者氏名	村上 哲生 (応用生物学部 環境生物科学科 教授) 鈴木 孝征 (応用生物学部 応用生物化学科 講師)		
内容	<p>エイキット (株) は、1999 年設立された若い会社である。物理的計測、化学的な分析を主とした、企業向けの評価技術サービスを主な業務としている。</p> <p>化学的分析の部門では、本学部の実習科目で扱う各種のクロマト分析の技術を応用しているため、学生にも馴染み易い業種であったように思われる。</p> <p>従業員は、120 名、男女比は 1.00:0.87 で、技術系の職場としては、女性の比率が比較的高い。設立後 10 年以上を経過しているのにも関わらず、従業員の平均年齢は 33 歳前後とのこと。早期の離職率が高い可能性もある。</p> <p>学生の見学態度は良好。質問も積極的に発していた。</p>		
			


企業現場教育 報告書

実施日	2017年 2月 20日 (月)		
訪問先企業名	天野エンザイム株式会社 岐阜研究所		
参加者	応用生物学部 全学科2・3年生	参加人数	17名 (うち引率 2名)
引率者氏名	前野 善孝 (応用生物学部 食品栄養科学科 教授) 大西 素子 (応用生物学部 応用生物化学科 教授)		
内容	<p>研究所に予定通り 13 時 30 分に到着した。</p> <p>はじめにご挨拶と天野エンザイム株式会社の説明を受けた。その後、ビデオにて研究開発を進めている酵素についての講義を受けた後、3グループに分かれ研究所内を見学した。途中、学生は案内をして下さった研究所の方の説明を熱心に聞き、質問をしていた。また、見学終了後に設けて頂いた全体の質疑応答の場でも積極的に質問をしていた。ただ、見学時間が長引きこの時間が短くなり残念であった。</p> <p>終了後は、所長もお見えになり、見学のお礼を伝え、研究所のモニュメントの前で記念撮影をして帰路についた。</p> <div data-bbox="588 1285 1278 1809" data-label="Image"> </div>		

企業現場教育 報告書



実施日	2017年 2月 21日 (火)		
訪問先企業名	アピ株式会社 池田工場		
参加者	応用生物学部 全学科2・3年生	参加人数	17名(うち引率 3名)
引率者氏名	大塚 健三 (応用生物学部 環境」生物科学科 教授) 宮田 茂 (応用生物学部 食品栄養科学科 准教授) 可児 由香 (応用生物学部事務室 担当課長)		
内容	<p>学生 14 名の予定でしたが、1 名欠席、全体で 16 名で見学しました。</p> <p>アピ(株)は養蜂関連事業を基盤にした、健康補助食品や医薬品の受託製造のスペシャリスト企業である。アピとはラテン語でミツバチという意味。</p> <p>今回の見学では少人数にもかかわらず、工場長をはじめ 7-8 名のスタッフで丁寧に対応していただきました。</p> <p>実際の見学では、ドリンク剤の研究開発している様子、瓶詰め、箱詰めなど様子を拝見。カプセル剤の製造段階、錠剤の製造現場なども見学させていただきました。</p> <p>それぞれの製造段階で徹底した品質管理を行っていることも伺いました。最新の検出装置での管理とともに、人の目で見ておかしい点はないか、というアナログによる不良品検査も行っていました。</p> <p>見学中や終了後には、学生からの質問も多くありました。学生にとっては非常に有意義な見学会であったと思います。</p>		
	 		

企業現場教育 報告書

実施日	2017年 2月 24日 (金)		
訪問先企業名	キャリア形成支援プログラム 東濃信用金庫(とうしん学びの丘 エール、本店)		
参加者	経営情報学部、国際関係学部、 人文学部 2年生	参加人数	57名 (うち引率 4名)
引率者氏名	小林 博行 (人文学部 歴史地理学科 准教授) 山本 明 (人文学部 コミュニケーション学科 准教授) 他、職員 2名		
内容	<p>1. 業界・企業の概要説明 (写真 1, 2 参照)・・・地域活性化 実施内容：地域社会・地域経済の持続的発展のために、信用金庫がどのような役割を果たしているのか、東濃信用金庫の事業内容と関連づけを説明いただいた。</p> <p>2. 本店見学 (写真 3, 4 参照)・・・リスク予防管理、働き方をイメージさせる 実施内容：本店各部署の見学過程でお金や個人情報の取扱いに関する話や業務内容、仕事のやりがいや大変さなどの説明を受けた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真 1 概要説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 2 概要説明</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真 3 本店説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 4 本店説明</p> </div> </div>		

(5) フィールド活動@ぎふ

フィールド活動@ぎふ 報告書

実施日	2016年 9月 14日 (水)		
訪問先企業名	高山市役所、現地見学		
参加者	食品栄養科学科 1・2年生	参加人数	27名 (うち引率 1名)
引率者氏名	小川 宣子(応用生物学部 食品栄養科学科 教授)		
内容	<p>1) 高山市の農業の現状と課題を理解する。</p> <p>①講義：学生が高山市の課題を考え、その課題解決を考えるために、高山市役所では、高山市農務課長から高山市の農業の現状と課題についてお話をお聞きしました。</p> <p>②現場見学：高山市の農業の実態についてトマトとしいたけを生産している橋場農場の方から農場の取り組みについてお話をいただきました。</p> <p>トマトとしいたけの圃場見学およびトマトの加工工場の見学と試食を行い、生産者の生産への取り組みについてお話をいただきました。</p> <p>2) 高山市の文化を理解する。</p> <p>高山市の生活の背景にある文化を体験するため、陣屋～城山～東山寺院群などを見学しました。見学をしながら、高山市の文化について本学森瀬一幸客員教授が資料をもとに説明を受け、素玄寺や雲流寺のご住職からの説明と庭から金森氏による高山の文化の特徴を体験することが出来ました。</p> <p>3) 高山市の課題と解決方法について学生がそれぞれ提案した内容を高山市農務課に提出。</p> <p>管理栄養科学専攻で学ぶことの強みとして、食材の栄養および調理加工の特性を熟知した上で、その食材を利用した加工品や料理の提案ができることです。地域の農産物を有効に利用することで豊かで健康な食生活を過ごすことができます。食の専門家として学生たちは、おいしくて、健康で安全な料理の提案に向け、実践を通し、学んでいく途中です。</p>		
			

フィールド活動@ぎふ 報告書

実施日	2016年 12月 3日（土）～ 4日（日）		
関係先企業名	土岐川・庄内川 森の健康診断実行委員会(市民団体)・野井の山造りの会(市民団体)		
参加者	応用生物学部 2・3・4年生 工学部 2・3年生 他	参加人数	47名（うち引率 1名）
引率者氏名	上野 薫（応用生物学部 環境生物科学科 講師）		
内容	<p>■開催場所：中部大学恵那研修センター（1泊2日）</p> <p>■スケジュール</p> <p>1日目</p> <p>09：45 スタッフ現地集合（神領駅8：00集合）</p> <p>10：15 集合・講義（スケジュール、人工林の歴史、現状、森の健康診断、調査項目）</p> <p>12：00 昼食</p> <p>13：00 森林調査（人工林と落葉広葉樹林、研修センター敷地内）</p> <p>15：00ごろ ごへだ受け取り、休憩、道具返却</p> <p>16：00 グループワーク（データまとめ、コンセンサス、提案作成）</p> <p>18：00 夕食（研修センター内）</p> <p>19：00 グループワーク（続き）</p> <p>19：30 中間発表（3分×6班）</p> <p>20：00 グループワーク</p> <p>21：00 懇親会（～22：00）</p> <p>2日目</p> <p>07：30 朝食（部屋掃除、荷物は宿泊部屋から移動）</p> <p>08：15 グループワーク</p> <p>10：30 発表会（発表8分、質疑応答4分）</p> <p>12：00 昼食（評価集計）</p> <p>13：00 表彰式、森林業界で働く卒業生・地元からの現場からの話題提供</p> <p>14：15 講演・提案を受けたディスカッション</p> <p>15：15 修了・後片付け・解散</p> <p>以上のスケジュールにて、プログラムを実施した。異分野学生・社会人としてのスキルを身に着けた市民を交えたグループワークにより、短時間でプロジェクト提案・発表まで行う過程は、学生における現場の課題解決力、コンセンサス力、企画力を向上させたと思われる。</p>		



(6) 地域活性化リーダーポスター発表会

第1回 地域活性化リーダーポスター発表会

1. 日時： 2016年12月20日（火） 午後5時10分～午後5時40分

2. 会場： 中部大学 不言実行館 2階 スチューデントcommons

3. スケジュール：

開会挨拶 松尾 直規（学監／地域・国際連携教育研究センター長）

学生によるポスター発表（地域活性化リーダー候補学生）

工学部都市建設工学科 3年 居波 太一 「地域を担う人間になるために！」

応用生物学部応用生物化学科 3年 家城 昂平 「津市の魅力発見者になりたい！」

閉会挨拶 倉根 隆一郎（地域・国際連携教育研究センター副センター長）



3. 活 動 報 告

<5大学共通プログラム>

(1) サマースクール

COC+参加大学共通プログラム サマースクール

平成
28年

9月

7

水

8

木

9

金

研修
拠点

中部大学恵那研修センター

岐阜県における若者の地元定着率を上げることを目的として、岐阜県内の企業と大学生との接点増加を試み、産業界ニーズにより適合した人材を育成する教育プログラムを各大学において実施しております。その一環として、大学間共通のサマースクールを岐阜県東濃地区で開催します。このプログラムでは、地域を支えている方々や他大学の学生と一緒に地域の「将来」を考えていきます。地域の現状や地元企業の理解を深め、自分の能力を磨いて、今後のキャリアの選択肢を広げましょう。

恵那
で

Aコース

まち・ひと・しごとから
暮らしと地域成長を考える！

恵那峡や栗きんとんで知られる恵那市。食のテーマパーク「恵那・銀の森」や古民家をリノベしてコミュニティハウスをつくったNPO法人えなここ。を訪ねて、恵那のまち・ひと・しごとから地域成長を考えましょう！

多治
見で

Bコース

地域の産業・観光振興計画と
タイル産業の将来を考える！

多治見市は、日本一のタイルの街。タイルは、建物の外壁からかわいらしい雑貨まで、とても身近な存在です。多治見市全面協力のもと、ミュージアムや企業の見学を通して、産業振興や観光の可能性を考えましょう！

中津
川で

Cコース

「食」「農産物」の
未来を考える！

中津川市には和菓子の文化やトマト、栗のような名産品があります。それを工夫して売り出している道の駅などを見学し、地域の人の思いに触れながら名産品の未来に向けた提案を考えましょう！



※この「サマースクール」は、中部大学認定[地域活性化リーダー]資格取得に必須です。

参加
大学

岐阜大学 中部学院大学 中部大学
日本福祉大学 名古屋学院大学



文部科学省

地(知)の拠点

参加費

5,500円

(2泊分の宿泊費、朝食2回、昼食2回、夕食2回込)



中部大学恵那研修センター

持ち物

洗面用具、寝具、筆記用具、健康保険証

※研修センター内で購入できるものは飲み物のみです。
タオル、シャンプー、ドライヤー等の備え付け備品はございませんので各自持参願います。

行程表

各コース毎に集合場所が異なります。(JR岐阜駅・JR金山駅)
集合場所からはすべてバスでの移動となります。
参加するコースが決まりましたら、個別に詳細をご連絡いたします。

1日目 9/7 (水)	9:00 ~ 11:00 コース別に出発地へ集合 11:00 ~ 17:30 各コース毎にプログラム実施 17:30 ~ 18:00 開会式 18:00 ~ 19:00 グループワーク 19:00 ~ 20:00 交流会 20:00 1日目終了
2日目 9/8 (木)	7:30 ~ 8:30 朝食 8:30 ~ 18:30 各コース毎にプログラム実施 18:30 ~ 19:30 夕食 19:30 ~ 20:00 情報交換会 20:00 2日目終了
3日目 9/9 (金)	7:30 ~ 9:00 朝食・片づけ 9:00 ~ 10:00 成果発表会準備 10:00 ~ 12:00 成果発表会 12:00 ~ 12:30 閉会式 12:30 ~ 13:30 昼食後解散

※コース決定後に事前学習などの詳細をご連絡いたします。

研修
拠点

中部大学
恵那研修センター
恵那市武並町竹折字西川
原田985-1

参加
人数

10名程度
(5大学あわせて50名程度)

申込
締切

平成28年
7月21日(木)

※申し込み先着順
定員になり次第締め切りいたします。

【申込方法】

申込書を記入し、下記COC+サマースクール担当者まで提出ください。

内容をメール(plus@office.chubu.ac.jp)に記載し、申し込みいただいても構いません。

(①氏名 ②性別 ③学年 ④学籍番号 ⑤学部 ⑥携帯電話 ⑦メールアドレス ⑧希望コース ⑨行きの乗車場所 ⑩帰りの降車場所 ⑪その他)

7月21日申し込み締切

氏名		性別		学年	
学籍番号		学部			
携帯電話		メールアドレス			
希望コース (A,B,C,Dを記入)	第一希望: _____ 第二希望: _____ 第三希望: _____ (A.恵那コース B.多治見コース C.中津川コース D.どのコースでも可) ※コースの希望がない場合は、第一希望にDのみ記入してください				
行きの乗車場所 (1か所選択)	JR岐阜駅・JR金山駅		帰りの降車場所 (1か所選択)	JR武並駅(現地最寄駅) JR岐阜駅・JR金山駅	
その他 (アレルギーや配慮事項)					

お問い合わせ: 中部大学 地域連携教育研究推進部 (16号館3階) ☎:0568-51-1763 ✉: plus@office.chubu.ac.jp

サマースクールの様子

恵那コース まち・ひと・しごとから暮らしと地域成長を考える！

恵那峡や栗きんとんで知られる恵那市。食のテーマパーク「恵那・銀の森」や古民家をリノベしてコミュニティハウスをつかったNPO法人えなここを訪ねて恵那のまち・ひと・しごとから地域成長を考えました。



多治見コース 地域の産業・観光振興計画とタイル産業の将来を考える！

多治見市は、日本一のタイルの街。タイルは、建物の外壁からかわいらしい雑貨まで、とても身近な存在です。多治見市全面協力のもと、ミュージアムや企業の見学を通して、産業振興や観光の可能性を考えました。



中津川コース 「食」「農産物」の未来を考える！

中津川市には和菓子の文化や栗、トマトのような特産品があります。それを工夫して創り上げている農家などを見学し、地域の人の思いに触れながら特産品の未来に向けた提案を考えました。



サマースクールの様子



開会式



教職員からのコースPR



チームビルディング



ゲストスピーカー講義



ミニ発表会



グループワーク・発表準備



最終発表会



集合写真

サマースクール 事前事後アンケート

2016年9月7日

コース：恵那・多治見・中津川（いずれかに○）

所属： 大学 学部 年 氏名： 男・女

次の35項目について、現在の自分について当てはまると思う番号の欄に○を記入してください。

（4：非常に当てはまる、3：やや当てはまる、2：あまり当てはまらない、1：まったく当てはまらない）

		4	3	2	1
Q1	書き手（話し手）が何を主張し、何を結論しようとしているかを考える				
Q2	書き手（話し手）が主張することの根拠や理由がどこにあるかを考える				
Q3	文章や議論において、何が問題になっているかをまずとらえようとする				
Q4	どのような事実が前提にされているかを考えながら読む（聞く）				
Q5	書き手（話し手）がどのような価値観を持っているかを考えながら読む（聞く）				
Q6	述べられている根拠や理由と結論の間に、飛躍がないかを考えながら読む（聞く）				
Q7	述べられている根拠や理由は、確かな情報源をもとにしたものかを考えながら読む（聞く）				
Q8	根拠の中身が事実なのか、意見なのかを区別しながら読む（聞く）				
Q9	根拠となるデータが、信頼できる方法で集められたのかを考えながら読む（聞く）				
Q10	常に自分の意見を持ち、自分の意見が周りや違った場合でもはっきり発言するようにしている				
Q11	わからないことや、違うと思ったことに対しては質問したり、意見を言ったりする				
Q12	自分と考えが違っていてもまずは相手の話を聞き入れる				
Q13	相手の意見を十分に理解し、自分とは異なった意見にも耳を傾けることができる				
Q14	いつも周りの人は自分の話をちゃんと聞いてくれていると思う				
Q15	いつも周りの人の意見をきちんと聞き、理解することができる				
Q16	チームで動くとき、自分が果たせる役割は何か自らみつめようとする				
Q17	チームで動くとき、自分には何ができるか考えて行動する				
Q18	チームで動くとき、自分の個人的な意見と異なっても納得いくまで確認する				
Q19	授業や人との待ち合わせは間に合うように5分前には着いている				
Q20	何事も余裕を持って準備するので徹夜などはすることはない				
Q21	悩みや問題があるときは周りの人に相談し、助けを求める				
Q22	いつも自信を持って発言し、行動している				
Q23	自分が何をしたいのかを、常に意識しながら行動している				
Q24	初めてやることは、誰かにやり方を教えてもらいたい				
Q25	友達や社会で問題が起きた時に、自分には何ができるか自分のことのように考える				
Q26	相手やその場の状況によって、自分の態度や行動を変えることがある				
Q27	誰かの意見や行動を待つより、自分で率先して行動することが多い				
Q28	大変な体験は生きる糧となると思うので自ら進んで引き受ける				
Q29	苦手だと思っても、力がつくと思ったら何事にも挑戦してみる				
Q30	自分の課題を自覚し、いつまでに何をやる必要があるかイメージできている				
Q31	多少困難なことがあっても乗り越えていけると思う				
Q32	いつも何か目標をもっていたい				
Q33	自分の力を活かして、社会の課題や問題を解決できたらうれしい				
Q34	気になる企業や職業等があれば、調べたり人に聞いたりすることができる				
Q35	社会人と学生とで、職業に対する責任感や考え方がどのように違うかを理解している				

3. 活動報告<5大学共通プログラム>

サマースクール前後での質問紙調査得点の比較結果について

中部大学

2016年9月7日から9日まで、3日間行われたサマースクールの前後による意識の変化について、「クリシン」「隠れた設定」「議論の堅さ」「議論の際の態度」「チーム貢献・態度」「行動力の変化」「社会性」「人生観」「将来感」以上の9因子35項目による質問紙調査による得点を分析した。分析対象は、5大学から参加した44名の学生であり、質問紙の得点を対応ありのt検定で比較検討をおこなった(表1)。

その結果、9因子と合計点のすべての項目で有意差が認められた。平均値より、サマースクール前の得点よりもサマースクール後の得点の方が明らかに向上していることが示された。

表1. 参加者全体のサマースクール前後の得点比較 t検定結果(n = 44)

項目	サマースクール前		サマースクール後		t値	p値
	M	SD	M	SD		
クリシン	8.64	1.50	9.52	1.49	-3.81	0.000 ***
隠れた設定	7.98	1.36	9.09	1.51	-3.95	0.000 ***
議論の堅さ	8.09	1.61	9.66	1.67	-4.84	0.000 ***
議論の際の態度	17.34	2.97	19.36	2.67	-4.99	0.000 ***
チーム貢献・態度	8.70	1.30	9.59	1.74	-3.64	0.001 **
行動力の変化	16.27	2.90	18.57	2.40	-5.21	0.000 ***
社会性	8.68	1.36	9.59	1.53	-3.96	0.000 ***
人生観	14.48	2.48	16.34	2.68	-5.05	0.000 ***
将来感	8.82	1.77	9.95	1.57	-4.07	0.000 ***
合計	99.00	11.53	111.68	13.07	-7.51	0.000 ***

p < .01, *p < .00

また、各コースの点数を分割して、同様に対応ありのt検定で前後の得点の比較を行った(表2)。その結果、恵那コースでは、「隠れた設定」「議論の堅さ」「行動力の変化」と合計点の4つで有意差が認められ、サマースクール前よりもサマースクール後の方が、得点が向上していることが示された。その他の項目においても、平均点は向上しているものの、有意差は認められなかった。

次に、多治見コースでは、「クリシン」「議論の堅さ」「議論の際の態度」「チーム貢献・態度」「行動力の変化」「社会性」「人生観」「将来感」以上8因子と合計点で有意差が認められ、サマースクール前よりもサマースクール後の方が、得点が向上していることが示された。有意差が認められなかった「隠れた設定」因子も得点の向上は見られた。

最後に、中津川コースは、「クリシン」「隠れた設定」「議論の際の態度」「行動力の変化」「人生観」「将来感」以上6因子と合計点で有意差が認められ、サマースクール前よりもサマースクール後の方が、得点が向上していることが示された。有意差が認められなかった3因子においても得点の向上は見られた。

表2. コースごとのサマースクール前後得点比較 t検定結果

項目	恵那コース(n=16)				多治見コース(n=16)				中津川コース(n=12)			
	前		後		前		後		前		後	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
クリシン	9.00	1.51	9.56	1.41	8.13	1.50	9.19	1.38	8.83	1.40	9.92	1.73
				t値				t値				
				-1.50				-2.51				
				0.155				0.024 *				
隠れた設定	8.19	1.52	9.38	1.71	8.06	0.93	8.81	1.33	7.58	1.62	9.08	1.51
				-2.26				-2.02				
				0.039 *				0.061				
議論の堅さ	8.44	1.46	9.88	1.36	7.63	1.45	9.50	1.79	8.25	1.96	9.58	1.98
				-3.36				-3.17				
				0.004 **				0.006 **				
議論の際の態度	17.56	3.14	19.25	2.91	16.81	2.69	18.88	2.00	17.75	3.25	20.17	3.13
				-2.11				-3.43				
				0.052				0.004 **				
チーム貢献・態度	9.13	1.45	9.50	1.59	8.25	1.24	9.63	1.54	8.75	1.06	9.67	2.27
				-0.97				-3.38				
				0.347				0.004 **				
行動力の変化	16.75	3.21	18.44	2.87	15.94	2.52	18.44	1.71	16.08	3.09	18.92	2.64
				-2.39				-3.91				
				0.030 *				0.001 **				
社会性	8.81	1.60	9.50	1.41	8.50	0.97	9.44	1.31	8.75	1.54	9.92	1.98
				-2.11				-3.53				
				0.052				0.003 **				
人生観	15.31	2.65	16.56	2.83	14.00	2.42	15.63	2.58	14.00	2.22	17.00	2.59
				-2.01				-2.57				
				0.063				0.021 *				
将来感	9.50	2.13	10.06	1.98	8.19	1.42	9.69	1.08	8.75	1.42	10.17	1.59
				-1.07				-3.59				
				0.300				0.003 **				
合計	102.69	13.29	112.13	13.07	95.50	10.65	109.19	10.88	98.75	9.28	114.42	15.99
				-3.70				-4.64				
				0.002 **				0.000 ***				

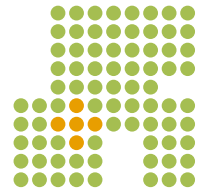
*p < .05, **p < .01, ***p < .00

※3 コースのコース別要因を独立変数、前後の得点を従属変数とする分散分析を行ったが、交互作用ならびにコースによる群間の差は認められず、前後の得点のみ主効果が認められた。結果は省略する。

(2) COC+企業向け成果報告会

岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成

参加
無料



岐阜大学は、平成27年度に文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」に採択され、地元4大学(中部学院大学・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学)・企業・自治体・金融機関等と協働して、地域のニーズにより適合した人材育成に取り組んでいます。
インターンシップを核とした3ステップ(①聞く・見る②挑戦する③活躍する)の教育プログラムを実施し、地元就職とUターン就職を促進し、地方創生に貢献していきます。
今回は、本プログラムの受講学生による成果発表の機会となります。ご参加お待ちしております。

COC+企業向け成果報告会

日時

12月14日(水) 受付開始13:30
14:00~16:30

募集
人数

100名(先着順)

対象

学生・大学関係者・事業協働機関・
企業(特に本プログラムや地方創生に関心ある企業)の皆様

会場

岐阜大学サテライトキャンパス
(岐阜市吉野町6丁目31番地 岐阜スカイウイング37 東棟4階)
岐阜大学(バスロータリー)から13:00発の送迎バスを用意しています。
会場へ直接行かれる方は、駐車場の準備がございません。公共交通機関にてお越しください。

内容

「インターンシップ」、「企業見学会」、「サマースクール(大学間合同の2泊3日の教育プログラム)」大学生による学修成果の報告(5組~6組を予定)

申込
方法

地域協学センターWEBサイト、イベントページより
(<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp/ccsc/index/event>)

要事前申込

申込
期限

平成28年12月7日(水)

問
合
せ
先

担当:今永・松林
TEL:058-293-3884
E-mail:imanaga@gifu-u.ac.jp

CCSC 地域協学センター
Center for Collaborative Study with Community
TEL.058-293-3168

[FAX] 058-293-2022 [E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp
[URL] <http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>

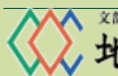


国立大学法人

岐阜大学

岐阜大学

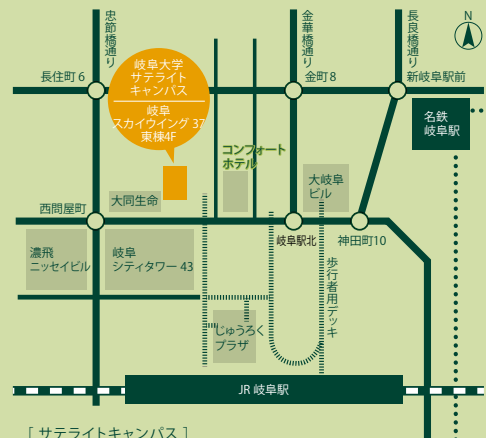
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL.058-230-1111(代表)



文部科学省

地(知)の拠点

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の
支援のもと推進されています



中部大学



中部学院大学

大学院 / 大学 / 短期大学等
Chubu Gakuin University & College



日本福祉大学



名古屋学院大学

COC+企業向け成果発表会の様子

日時： 2016年12月14日（水） 14時00分～16時30分

場所： 岐阜大学サテライトキャンパス 多目的講義室（大）

<プログラム>

14:00 開会の挨拶 岐阜大学理事・副学長 福士 秀人

14:10～14:30 COC+事業概要説明 岐阜大学地域協学センター長 益川 浩一

14:30～16:25 学生による成果報告

- (1) 企業見学会について（岐阜大学）
- (2) インターシップについて（岐阜大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、中部大学、中部学院大学）
- (3) サマースクールについて（岐阜大学）

16:25 閉会の挨拶 岐阜大学地域協学センター副センター長 佐々木 実



発表の様子 中部大学応用生物学部 3年 山本泰千・吉田純也
テーマ 「地域活性化リーダーを目指して」



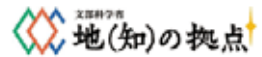
会場の様子



集合写真

(3) 合同企業説明会

岐阜県内の優良企業による



合同企業 説明会

参加企業

62社
(予定)

就職活動を
スタートした皆さんへ!!

期日

平成28年

3月16日(水)

13:00~17:00

会場

JR岐阜駅前

じゅうろくプラザ5階

TEL 058-262-0150

すべての
就活生の皆さん
参加大歓迎!!
(予約不要)

岐阜でステップ

×

岐阜にプラス

平成27年度 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業「岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」

岐阜大学

058-293-2147
(キャリアセンター就職支援室)

中部学院大学

0575-24-2216
(キャリア支援センター事務室)

中部大学

0568-51-4184
(キャリア支援課)

日本福祉大学

0569-87-2321
(キャリア開発課)

岐阜県 一般社団法人 岐阜県経営者協会 株式会社 十六銀行 株式会社 大垣共立銀行 株式会社 マイナビ

岐阜経済大学
(協力校)

名古屋学院大学
(協力校)

合同企業説明会参加予定企業一覧 (50音順)

No.	企 業 名	所在地	業 種
1	アテナ工業株式会社	関市	プラスチック製品
2	株式会社 天木鉄工	大垣市	輸送・精密機械、航空機関連ほか
3	イビデン株式会社	大垣市	電子・電気機器、セラミックス
4	株式会社 イマオコーポレーション	関市	金属製品、商社（貿易）ほか
5	株式会社 インフォファーム	岐阜市	商社（薬）OA機器）、設計、情報サービス
6	上田石灰製造株式会社	大垣市	窯業・土石・セラミックス
7	榎本ビーエー株式会社	各務原市	機械、航空機関連
8	株式会社 大垣共立銀行	大垣市	金融
9	株式会社 岡本・ナベヤ	岐阜市	金属製品・金型
10	特許業務法人オ ندا国際特許事務所	岐阜市	専門サービス（特許事務所）
11	株式会社 オンダ製作所	関市	金属製品、プラスチック製品ほか
12	株式会社 カワイ	海津市	金属製品、輸送・精密機械
13	河上薬品商事株式会社	関市	商社（薬）
14	岐セン株式会社	瑞穂市	繊維工業
15	岐阜商工信用組合	岐阜市	金融
16	岐阜信用金庫	岐阜市	金融
17	岐阜トヨベツト株式会社	岐阜市	商社（自動車・自動車部品）
18	岐阜乗合自動車株式会社	岐阜市	旅客運送業
19	岐阜プラスチック工業株式会社	岐阜市	プラスチック製品
20	株式会社 久米商店（スーパーバリュー）	関市	家具・インテリア、アウトレット
21	クラレプラスチック株式会社	不破郡	プラスチック製品
22	株式会社 K V K	岐阜市	金属製品・金型
23	コダマ樹脂工業株式会社	安八郡	プラスチック製品
24	サンケミカル株式会社	海津市	繊維工業
25	三甲株式会社	瑞穂市	プラスチック製品
26	株式会社 十六銀行	岐阜市	金融
27	昭和コンクリート工業株式会社	岐阜市	窯業・土石・セラミックス
28	新興機械株式会社	安八郡	機械
29	株式会社 セイノー情報サービス	大垣市	物流 I T
30	株式会社 関ヶ原製作所	不破郡	機械
31	関信用金庫	関市	金融
32	株式会社 ソフィア総合研究所	大垣市	情報サービス
33	大進精工株式会社	岐阜市	エンジニアリング
34	太平洋精工株式会社	大垣市	輸送・精密機械
35	株式会社 チューキョー	岐阜市	印刷、情報サービス、広告・映像制作
36	中部事務機株式会社	岐阜市	商社（OA機器）、情報サービス
37	株式会社 TYK	多治見市	窯業・土石・セラミックス
38	株式会社 デリカサイト	大垣市	食品、サービス（フード）
39	株式会社 電算システム	岐阜市	情報サービス
40	東濃信用金庫	多治見市	金融
41	株式会社 トーカイ	岐阜市	医療・福祉・環境サービス、リース
42	トヨタカラー岐阜株式会社	岐阜市	商社（自動車・自動車部品）
43	日本耐酸塩工業株式会社	大垣市	窯業・土石・セラミックス
44	野田クレーン株式会社 / 野田自動車工業所	大垣市	建設（土木）、エンジニアリングほか
45	ハートランス株式会社	岐阜市	物流
46	株式会社 パールマネキン	瑞穂市	リース、建設、ディスプレイ
47	ハイジェントテクノロジー株式会社	大垣市	電子・電気機器
48	株式会社 ハウテック	下呂市	家具・木製品・住宅部材
49	ハビックス株式会社	岐阜市	製紙・紙製品
50	株式会社 バローホールディングス	多治見市	スーパー
51	株式会社 樋口製作所	各務原市	輸送・精密機械
52	飛騨信用組合	高山市	金融
53	福寿工業株式会社	羽島市	輸送・精密機械、商社（自動車部品）
54	福田刃物工業株式会社	関市	金属製品
55	株式会社 文溪堂	羽島市	出版
56	株式会社 マルエイ	岐阜市	ガス
57	丸佐株式会社	岐阜市	商社（繊維総合）
58	株式会社水甚	岐阜市	アパレル
59	三菱日立ホームエレベーター株式会社	美濃市	機械
60	美濃工業株式会社	中津川市	輸送・精密機械
61	矢橋ホールディングス株式会社	大垣市	住宅、機械、石灰
62	ヤマニ洋紙工業株式会社	岐阜市	商社（紙・紙製品）

岐阜県内の優良企業による

合
同
企
業

説
明
会

岐阜でステップ×岐阜にプラス

参加企業

99社

平成29年

3月27日(月)

13:00~17:00

岐阜市文化センター 催し広場

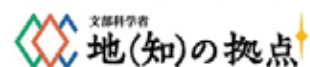
住所 岐阜市金町5丁目7番地2

TEL 058-262-6200

就職活動を
スタートした
皆さんへ!!

すべての就活生の皆さん参加大歓迎!! (予約不要)

文部科学省 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)
「岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」



(事業協働機関)

岐阜大学

058-293-2147

(キャリアセンター-就職支援室)

中部学院大学

0575-24-2216

(キャリア支援センター-事務課)

中部大学

0568-51-4184

(キャリア支援課)

日本福祉大学

0569-87-2321

(キャリア開発課)

名古屋学院大学

052-678-4090

(キャリアセンター)

岐阜県/一般社団法人 岐阜県経営者協会/株式会社 十六銀行/株式会社 大垣共立銀行/株式会社 マイナビ/岐阜経済大学(協力校)

3. 活動報告<5大学共通プログラム>

合同企業説明会参加企業一覧 (50音順)

番号	企業名	業種
1	秋田屋本店	食品
2	アテナ工業	製造業
3	一丸ファルコス	化粧品原料製造・健康食品原料製造
4	揖斐川工業グループ	製造業
5	イマオコーポレーション	金属製品製造業
6	岩田製作所	製造業 (産業用機械部品)
7	印刷工房	印刷
8	インフォファーム	情報サービス
9	ウィリー	情報サービス
10	上田石灰製造	石灰製造業
11	エイワ	金属製品加工業
12	エドランド工業	金属製品製造業
13	エヌテック	電子・電気機器・機械
14	エヌビーシー	電子・電気機器、輸送・精密機械
15	榎本ピーエー	輸送用機械器具、一般機械器具、医療・環境機械器具製造
16	大垣共立銀行	金融業
17	大垣西濃信用金庫	金融業
18	岡本・ナベヤ	製造業
19	オンダ製作所	製造・販売
20	カインダストリーズ	金属製品製造業
21	カワイ	金属製品製造業
22	河上薬品商事	医薬品配置販売業
23	岐建	総合建設業
24	岐阜商工信用組合	金融業
25	岐阜新聞社	マスコミ
26	岐阜信用金庫	金融業
27	岐阜トヨペット	商社 (自動車販売)
28	共友リース	物品賃貸業 (リース・割賦販売)
29	共立コンピューターサービス	情報処理
30	久米商店 (スーパーバリュー)	家具小売
31	クラレプラスチック	プラスチック製品
32	栗本建材	建築資材卸売業
33	KVK	一般機械機器製造業
34	コームラ	印刷および情報サービス
35	コダマ樹脂工業	プラスチック製造業
36	三栄水栓製作所	給水栓類製造販売
37	サンケミカル	繊維工業
38	三甲	プラスチック製品製造
39	サンラリーグループ	アパレルメーカー
40	サンワトレーディング	航空宇宙技術
41	シバタ	婦人服の製造卸販売
42	十六銀行	金融業
43	昭和コンクリート工業	建設業
44	新興機械	製造業
45	新日本ガス	液化石油ガス・ガス器具・石油製品の販売
46	セイノー情報サービス	情報処理・ソフトウェア
47	関ヶ原製作所	一般機械器具製造業
48	関信用金庫	金融業
49	ソフィア総合研究所	情報処理
50	大進精工	総合エンジニアリング (サービス業)
51	高山グリーンホテル	ホテル業
52	田澤電材	電設資材卸売業

番号	企業名	業種
53	チューキョー	企画製作
54	中部事務機	OA 機器・IT 関連機器総合商社
55	テクノア	情報サービス
56	デリカサイト	食品・情報
57	電算システム	情報サービス
58	天龍ホールディングス	輸送機器・その他製造・専門サービス業
59	東京ファブリック化工	工業用ゴム製品製造業
60	東濃信用金庫	金融業
61	トーカイ	医療・福祉・健康をテーマにした商社
62	トヨタカローラ岐阜	自動車小売業
63	トヨタ部品岐阜共販	商社 (卸売業)
64	トヨタレンタリース岐阜	自動車賃貸業 (レンタカー、カーリース)
65	鍋屋バイテック	製造業
66	日電精密工業	電気通信機器部品製造
67	日東製陶所	製造業
68	日本耐酸塩工業	各種ガラスびんの製造・販売
69	日本特殊硝子	製造業
70	日本トムソン岐阜製作所	はん用機械器具製造業 (ベアリングメーカー)
71	ニューみやこ	旅館業
72	濃飛西濃運輸	物流
73	濃飛倉庫運輸	総合物流業
74	野原電研	自動車環境部品等製造
75	パールマネキン	ディスプレイ業
76	ハイテム	エッグファームオートメーション機器の研究・開発・製造・輸入・プランニング・販売
77	ハウテック	木工業
78	パナホーム愛岐	建設業
79	ハビックス	紙・不織布製造業
80	ピーアイシステム (太平洋工業グループ)	情報処理
81	樋口製作所	自動車部品製造業
82	飛騨信用組合	金融業
83	ファミリーストアさとう	小売業
84	福寿工業	自動車部品製造業
85	福田刃物工業	製造業
86	フジ精密	製造業
87	文溪堂	教育図書出版
88	マジオネット	自動車学校
89	マルエイ	燃料の卸・小売業
90	水甚	アパレルメーカー (繊維製品の企画・開発・製造卸)
91	ミズタニバルブ工業	給水栓製造販売業
92	ミズノ常備薬	医薬品配置販売業
93	三菱日立ホームエレベーター	はん用機械器具製造業
94	美濃工業	輸送用機械器具製造業
95	森松工業	金属製品製造業
96	矢橋大理石	建築石材加工、販売、施工/輸送用機械器具製造 / 電子部品製造
97	矢橋ホールディングス	製造業
98	ヤマニ洋紙工業	商社 (紙・紙製品)
99	レシップホールディングス	電気機械器具製造販売業

※企業名は株式会社等を略して掲載しています。

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」
(平成 27 年度採択)
事業名称「岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」

地域で活躍する「地域活性化リーダー」教育プログラム
平成 28 年度 成果報告書

発行日 2017 (平成 29) 年 3 月

編集発行 中部大学 地域連携教育研究推進部
〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200 番地
電話 : 0568-51-1763 FAX : 0568-51-4659
<http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/>

印刷 木野瀬印刷株式会社
〒486-0958 愛知県春日井市西本町三丁目 235 番地